ベトナムにおける女性と革命

アーリン・アイゼン

本文章は Arlene Eisen, *Women and Revolution in Viet Nam* (London: Zed Books, 1984) から著者の承諾をえて、第4章と第5章を訳出したものである。

第4章　女性に対するメガ・バイオレンス

平和になりました。でも周り全部、まだ危険です。貴方も私と同じ歩幅で歩かねばなりません。

ファン・チ・ティエン - 19才の地雷除去従事者。1979年に外国人ジャーナリストをエスコートしたときの言葉。

戦闘の歳月が終った1975年春、米国が後援していた南ベトナム軍は崩壊した。革命の旗の海が、解放軍戦車のサイゴン進駐を歓迎した。しっかりと武装した若い女性が出迎え、歓呼して、最初の戦車を停めた。グエン・チュン・キエンは当時18歳で、サイゴンで戦うゲリラ戦士だった。彼女は大統領官邸に続く最短の道沿いに案内するため、戦車によじ登った。数分後、人民解放軍（PLAF）は官邸の上に南ベトナム臨時革命政府の旗を掲げた。チュー大統領はすでに逃げ出していた。かわりに就任したズオン・ヴァン・ミン大統領（「ビッグ・ミン」）は、最初のPLAF部隊が官邸に入ると、立ち上がり、こう挨拶した。「革命が起きて、あなた方がやってきました。今朝私は、貴方がたに権利を移譲するためお待ちしていたのです」。

PLAFの幹部は礼儀正しく、だがきっぱりと、「革命は完全に権力を掌握しました。前の政権は覆されたのです。既に失った権利を移譲できる者は誰もいません。貴方は即時降伏しなければなりません」と言った。[1]

PLAF副司令官であり南の女性連合会会長であるグエン・ティ・ディンは、いかに地元の女性民兵部隊や女性連合会がPLAF到着以前から南部の多くの都市でチュー政権から正式ポストを奪取したか説明し、かつて二人の米陸軍大佐と一人の海軍司令官が居住していた邸宅の接収に当たった女性グループについて語っている。4月29日に彼女たちがその邸宅に着くと、米の将校達は昼食の最中に逃げ出した。ディン司令官は思い出して微笑んだ。「彼らはものすごく怖がっていて、針一本持たずに出て行ったのですよ。」[2]

糸が切れた操り人形のように、全サイゴンの国家装置が数時間以内に崩壊した。

翌月の月曜日、公式なパレードは行われなかったが、人々による自然発生的な喜びと安堵のデモンストレーションが行われた。何千もの人々が通りへ出て行った。サイゴンは征服されたのではない。陥落したのでもなかった。サイゴンは、解放されたのである。

正式な国民的祝典は5月15日に始まった。サイゴンでは200万の人民が臨時革命政府とベトナム民主

1　*New York Times*, 3 May 1975 及び *South Viet Nam in Struggle*, No.300, 12 May 1975, Nos. 301-2, 19 May 1975 に見られる勝利の光景。

2　Associated Press Release, 23 May 1975

共和国の旗を振りながら、セントラルスクエアにつめかけた。祝典には女性たちの軍と民兵の部隊によるパレードも行われ、勝利のために女性が成し遂げた甚大な貢献を誇った。

勝利の到来は容易でなかった。この章は、帝国アメリカの軍事力を負かすためにベトナム人民が払った計り知れない犠牲を記録する。アメリカとの戦争によるベトナム女性の傷は深く、それが今もいっそう悪くなっていることもあり、今後も長く注意しその治療を続ける必要がある。癒しこそ、ベトナムにおける女性解放の前提条件である。

「私たち自由の戦士たちのお墓が、いたる所にあるのです」

ベトナム女性連合会の教育責任者　レ・トゥーは勝利の後、南部諸省の全域を旅行した。彼女はこう報告している。

> 「私たちの自由の戦士たちのお墓が、いたる所にあるのです。・・・訪問した場所の全部で、子供を亡くした母親たちが自分の子どもか、その子たちの日記を見せてくれました。…分かりますね。戦争は彼女たちの一番美しい夢、彼女たちの一番大事な愛を取り上げた。生存者のなかで女性たちが最も苦しんでいます。一番親愛な人たちを亡くしたら、もう二度と会うことはできません。それは癒すことのできない傷なのです。南部のある土地の女性連合会執行委員会会議では、15人の委員のうち2人を除くと全員が未亡人でした。」[3]

1965年から75年までの戦争の10年間で、紛争でどの立場にいた人々も、兵士も民間人もあわせて、200万人以上のベトナム人が殺された。100万人の女性が未亡人となり、80万人の子供が孤児になった。300万人以上が負傷し、多くは重傷だった。最悪の傷のなかには、対人兵器が引き起こしたものもある。それらは、人間という標的の痛苦を最大限にするが、人体以外の物は大して貫通できないよう米国で開発された武器である。南部にいた革命幹部カードルは90％が殺害されたと推定される。[4]1975年以後、さらに一万人の人々が田畑に残る米軍の遺留兵器によって命を奪われた。

チャーリー・カンパニー、つまり米陸軍第82師団第3空挺旅団は、1968年3月16日にソンミ村で504人を虐殺した。それはミライの虐殺として有名になった。たいていの犠牲者は女性と子供で、GIは何百人もの女性を殺す前にレイプした。[5]その残虐行為からほとんど10年を経て、生き残った一人であるグエン・ティ・ドックという73歳の女性は苦しい沈黙を破り、訪問者に語り出した。「家族11人が殺されました。息子たち、嫁、孫たち。誰が私の墓の世話をするのでしょう？　今私は齢老いて、一人ぼっちです。家族がいないのです」。ドック夫人の言葉は咽び泣きのために途絶えた。彼女を慰めようとした若い女性は、彼女自身の家族もソンミで虐殺されていた。彼女はそれから民族解放戦線（NLF）に参加した、ベテランのゲリラである。当時は14歳だった。1975年にソンミに戻り、現在は政治カードルとして活動し、村を運

3　著者によるレ・トゥーへのインタヴュー（1981年8月29日ハノイ）

4　以下の文献にある統計から。John Cavanaugh *et al.*,'A Time to Heal' (Whashington DC, Indochina Resource Center, 1976); Le Anh Tu, 'Viet Nam: Lagacy of War' (Philadelphia: American Friends Service Committee, 1975); John Sprangens Jr, 'Food and Will', *The Texas Observer*, 27 February 1981, p.8.

5　Committee to Denounce War Crimes of US Imperialism, *Crimes Perpetrated by US Imperialists and Henchmen Against Women and Children in South Viet Nam* (South Viet Nam: Giai Phong Publishing House, 1968), p.13. 米軍によるレイプについての分析に関しては以下を参照のこと。Arlene Eisen Bergman, chapter 4: 'The Politics of Rape in Viet Nam', *Women of Viet Nam* (San Francisco: Peoples Press, 1975)

営し、村の再建の組織化を助けている。[6]

未来の世代への攻撃

ホーチミン市の最大の産婦人科病院長をつとめる医師グエン・ティ・ゴク・フオンは、こう語った。

> 「かれらに何を言うべきか？私たちがどんな気持ちか想像して下さい。戦争の長い歳月の間、離ればなれになっていた夫婦がとうとう再会する。妊娠する人もいる。かれらは再会をとても長い間待ち望んでいた。それから、生まれてきた子どもが、両親の一人が枯葉剤を浴びた結果起きた深刻な遺伝子異常のために死んでしまう。そんなケースがたくさん、たくさんあるのです」。[7]

ベトナム農村への系統的な枯葉剤作戦と圧倒的集中爆撃は、民族解放運動からその支持者と最強の支持基盤ーベトナム人民の大多数である農民ーを奪う戦略の要石であった。アメリカ上院の難民小委員会は1965年から73年の間に一千万以上の人々が自分の村から逃れることを強制されたと見積もった。アメリカは「エージェント・オレンジ」として知られる科学的枯葉剤を、南ベトナムの領域の半分以上に散布した。エージェント・オレンジは、ダイオキシンという致死症の威力を持つ至上の化学物質を含む。水一万リットル中に一グラム混ぜた水を、一口飲ませるだけでモルモットを殺すに十分である。戦争が終るまでに、一人あたり6ポンドが南ベトナムの上に散布されていた。更に悪いことに、ダイオキシンは水だけでは溶解しない。ベトナムの科学者は、小川、河川、泉が今後何世代も汚染が続くと予想している。ダイオキシンの全般的な破壊力はまだ算定されていない。ベトナムの医師たちにはデータをまとめるために必要な医学的な設備、またコンピュータ計算のできる設備が欠けているため、人々の全体的な損害のデータをまとめることができなかった。だが彼らは、ほんのわずかな被曝によっても確実に肝臓組織を破壊し、死産、流産、出産、先天的欠損症、癌を引き起こすことを立証（経験）してきた。

トゥーズー病院で妊娠二ヶ月以後に流産した女性は1950年代半ばには1％をほとんど越えなかったが、1967年に15％になり、1976年には20％にまで跳ね上がった。まれに胎盤の変形によって胎児が死亡したり、子宮破裂が起きる場合もある奇胎妊娠について見ると、その発生率は1952年の0．8％から1976年の3％に上昇した。子宮頸癌は1952年から1976年で三倍になり、1980年までには五倍に増えた。南部で女性の癌の約65％は子宮頸癌で、その比率は北部に較べてはるかに高い。なぜなら南部のみがダイオキシンを散布されたからである。

母子保護研究所という産婦人科の研究医療機関は、ダイオキシンを浴びた妊婦はヒロシマのサバイバーよりも六倍染色体破壊にあっていることを発見している。

女性たちは手足の代わりにヒレがついた赤ちゃん、涙管のない赤ちゃん、二つ頭のある赤ちゃん、腎臓のない赤ちゃん、その他の恐ろしい変異を持つ子どもを生んだ。国家的な統計データは、未だまとめられていない。だがトゥーズー病院で致命的変異が認められた新生児の数は、1952年の0.01％から1978年の0.24％まで上がっている。[8]

6　Martha Winnacker, 'Recovering from Thirty Years of War', *South East Asia Chronicle*, Nos. 56-7, May-July 1977, pp.5-6

7　著者によるグエン・ティ・ゴク・フォンへのインタヴュー（1981年9月12日ホーチミン市）

8　ダイオキシンに関する情報はフォン医師へのインタビューと以下の文献による。Ton Duc Lang, 'US Chemical War in Viet Nam Has Not Ended', *Viet Nam* (pictorial) No. 267, March 1981, pp. 12-13. また以下の文献も参照のこと。*Report from International Symposium on Long Term Ecological and Human Consequenses of Chemical Warfare in Viet Nam* (Hanoi: Foreign

強制的都市移住の戦略は、ベトナム民衆の中に別の殺人者を残した。性病である。土地を離れることを強いられた一千万の農民は、たいていサイゴンやダナンや他の南ベトナムの都市へ群がっていった。女性は事実上支えになる手段がなかった。約50万人は売春女性になった。性病は売春女性にとっての問題だけではなかった。性病は兵士、役人、彼らの愛する人々にも感染した。正確な数は分からないが、その総数は1975年当時、300万人と見積もられていた[9]。感染者は数千人の事例を除いて1981年までに治療を受けることができたが、抗生物質の欠乏によって性病の全面的除去は妨げられた。

これら遺伝子異常をともなって生まれてくる子どもたちの親はダイオキシンに被曝している。Arlene Eisen

銃と誘拐のもとでの離婚

女性の健康に対するジェノサイド的攻撃が始まる前さえ、ベトナム女性の家族と母性に関する権利は攻撃を受けていた。1954年のジュネーブ協定には、南部諸省でベトミンと共に戦った者は国が二年後再統一されるまで17度線以北に再結集することを規定する条項があった。何千もの家族が、愛する者たちと二年以内に再会きることを期待して、離ればなれになった。だが再会のかわりに、ジエム軍は夫が北部へ行った女性たちを逮捕して拷問し、離婚書類へのサインを強制した。彼女たちは、忠誠証明のために規定の期間内に再婚せねばならなかった。武装したジエムの手先が再婚しなかった女性たちを見つけだし、レイプした[10]。そうすることでジエムは、南北ベトナムの分断を永続的に維持するというアメリカの戦略の一端を担ったのである。ジエムや彼の後継者の攻撃にかかわらず、家族の絆は強固に維持された。ベトナムがアメリカに分断を強制された歳月にあって、遠く離れた家族に対して誠実であるということは自分の心と政治的信条の戦闘的防衛を意味することになった。ある南部の女性は北に再結集した夫との決別通告を拒み、警官にこう言った。

「夫を糾弾するなんて、できない。彼は、私の心の中にいるの。あんたが私に夫を棄てさせたいなら、私を殺して心臓を取り出しなさい。」[11]

数年後の1975年4月、アメリカ政府は南ベトナムから約一万人の子供を空輸した。この子供たちは、不注意にも、人間の輸送には安全でない貨物輸送機に積み込まれた。アメリカの新聞は、「ベビーリフト作

Language Publishing House, 1983).

9 Cavanaugh *et al.*, op. cit., p. 11. 売春に関しては以下に詳しい。Arlene Eisen Bergman, op. cit., Chapter 5: 'Mass Production of Prostitutes'

10 Wilfred Burchett, *Viet Nam Will Win* (New York: Guardian, 1970), pp. 119-20.

11 'History of the Vietnamese Women's Movement', Viet Nam Report, No. 9, April 1975, p. 9.

戦」という大見出しを掲げてこれを取り上げ、世界の人々にアメリカの人道主義的意図を確信させようとした。共産主義者は孤児たちを殺すつもりだと主張された。ベトナム人の答えはこうだった。「私たちは自分の子供たちの世代が平和に暮らせるように30年間戦い、犠牲を払ってきた。この誘拐はベトナム人民に対する別の形のジェノサイドである。」[12]

1975年4月4日、150人以上の子供が飛行機の衝突によって死亡した。

ベビーリフト作戦は、ベトナムにおける政治的破産から政府を救い、支持を集めるための土壇場の努力だった。世論調査は、アメリカ人の75%がベトナムにこれ以上介入することに反対していることを示していた。議会はにわかに敗者への支持を尻込みするようになっていた。そんな状況のもとでフォード大統領とマーチン大使はベビーリフト作戦を計画し、チュー福祉大臣にこの計画を受け入れるよう説得した。彼はこう説明した。

> 「アメリカ大使によれば、この避難（ベビーリフト作戦－訳者注）は、共産主義者の支配地区を棄てた何百万もの難民と共に、アメリカを世論がベトナム共和国支持へとシフトさせるのに役立つだろう。特にこれらの子どもたちがアメリカに上陸するとき、ラジオや報道機関が取材して取り上げ、効果は絶大になるだろう。」[13]

この政治家は、多くの子どもたちが孤児でないことをわきまえていた。母親たちは我が子の身を心配し、戦争の惨害から守るために時として子どもを孤児院に入れていた。サイゴンの物価暴騰で我が子に食事を与えられなくなり、孤児院に一時的に子供を委ねる母親たちもいた。親と一緒に住んでいたのに、アメリカの養子縁組機関が街頭から恣意的に連れ去った子どもたちもいた。実際に孤児だった者たちもいたが、もしベトナムに留まっていれば共同体がその子供たちの世話をしたであろう。

アメリカ社会における人種差別主義の蔓延を思えば皮肉なことだが、ベビーリフト作戦の組織者たちは、彼らはベトナム人の人種差別主義的憎悪からGIを父に持つ子どもを救済しているのだ、と主張した。ベトナム解放以降、アメリカの新聞報道は、ベトナムに関して他のどの問題にもまして、いわゆるアメラジアンの子どもが直面する差別と思しきものに大きく紙面を割いた。それらのレポートは、しばしば、アメリカの富と快適さに惹かれる比較的少数のホーチミン市在住ベトナム女性が提供した。彼女たちは、我が子の父親であるアメリカ人の「ミルクと蜜の流れる国」への移住に夢を託していた。そして自分の受けた虐待の物語によって完全な抜け道が手に入いることを望んでいた。あるアメラジアンの少年は、ホーチミン市のヤングフラワー孤児院で外国人ジャーナリストに「僕の名前はチャン。9歳です」と言うと、こんな歌を歌った。

> 「戦争は過ぎ去った／飛行機はもう来ない／生まれたての者たちのために泣かないで
> ／エヴァーグリーン／人間はいつも新しく生まれてくる」[14]

私は、ベトナムを旅行中しばしば、GIを父に持つ子を生んだ母親はレイプされたか売春女性だったと思われていることに気づいた。彼女たちは人に羨まれはしない。が、その子どもたちは公式にベトナム人として同等の権利と特権を享受できることになっている。実社会では子どもたちは母親の低い地位を受け継いでいる。特に、もし母親が今日の革命過程の外部に留まることを選んだ売春女性だった場合はそうだ。この子

12　Internewsのリポーター Linda Garrettによる未発表の手紙。1975年4月28日、ハノイにいい滞在していた。

13　元サイゴン政府福祉大臣から当時の首相 Tran Thien Khiemにあてた手紙。*The New York Times*, 7 April 1975.

14　John Pilger, 'Back to Viet Nam', *Aftermath* (London: New Statesman, 1982) p. 18.

どもたちは時々、ベトナム社会主義共和国の政策を未だ学んでいない他の子どもたちにいじめられる。だがその社会的不名誉は、アメリカで有色人種の子ども全員が直面する系統的な人種差別主義的抑圧とは決して比較できない。

エコサイドと経済的嬰児殺

ソンミ(ミライ)での虐殺で多くの村人が村を逃れ、ジャングルで解放勢力に参加した人もおれば、町に住む親戚とともに逃げ場を見つけた人もいた。一年後にも村に残っていた人は、アメリカが支配する難民キャンプへ強制的に収容された。それから米軍は、ココナッツの森を破壊するために戻ってきた。これらの木が生えていた地面は、ブルドーザーで平らにされた。堤防は、ソンミ村の人々が米を育てる湿地帯への塩の侵入を防いでいたのだが、爆弾で破壊された。繁栄していた村は荒れ地になってしまった。他の何千もの南ベトナムの村もそうだった。

南ベトナムの43%以上の農園や果樹園が破壊された。すべての灌漑網が繰り返し爆撃を受けた。水牛は耕作に欠かせないが、その半分は殺された。枯葉剤が効かなかった地域では、米軍が植物をブルドーザーでおしつぶし、それからエレファント草(稲科の植物ー訳者注)を植えた。その草が乾くと、米軍はナパーム弾やガソリンで放火し、荒れ狂う草原の火で付近の万事を焼き尽くした。

人々はしばしば何千トンもの土を手で枝網籠に入れる手作業で、機械の恩恵を受けずに何千エーカーもの土地を再生させてきた。しかし1982年3月の時点で、元は耕地だった50万ヘクタールは休作状態であり、何百万ヘクタールもの森林の破壊はおそらく永続的であろう。ある地域では、U Minh森[15]が燃え尽くされた後の炭が2メートルの厚さで積もったままだ。17度線に近い中央ベトナムでは、森林の大規模破壊は慢性的浸水や土壌浸食を引き起こし、そればかりか地面の温度の上昇という結果をも招いた。山の下を吹く空気を冷やす木々が無くなり、焼き付けるような風が降りてきて、水田を過熱し、その上へ砂を吹き付ける[16]。5500万人、そして総計して耕地面積がわずか540万ヘクタールーつまり10人当たりに2.5エーカーーでは、正常な環境のもとにあったとしても、皆を食べさせる十分な食料を育てるのは難しいであろう[17]。そしてベトナムの環境は、正常とはほど遠いものである。

また、離郷を余儀なくされた一千万の農民たちは、自分の畑を休耕しておかねばならなかった。だからアメリカは、アメリカ支配下の人々を養うために、毎年30万トンの米を供給した[18]。アメリカには敗北が迫っているとみえたとき、援助を大幅に削減した。1975年4月30日までに、サイゴンの倉庫に備蓄された米は、サイゴン市人口が15日間食べるのに足りる分量しかなかった。また中部ベトナムにおける広範囲な洪水は、深刻な作物被害を引き起こした。これらの災禍が組み合わさり、解放直後の南部諸地域に飢饉の脅威を生み出した。南の諸都市で大規模な飢餓を防ぐことができたのは、北部から莫大な米が寄付されたからであった。[19]

きらびやかさの値段

解放前後、サイゴンのショウウインドウには日本製のラジオ、テープレコーダー、その他の機械類などが

15 Kathleen Gough, 'An Interview in Hanoi', *US/Viet Nam Friendship Association Newsletter*, Vol. 4, No. 3, May-June 1982, p. 4.

16 Ngo Vinh Long, 'View from the Village', *Indochina Issues*, No. 12, December 1980, p. 7.

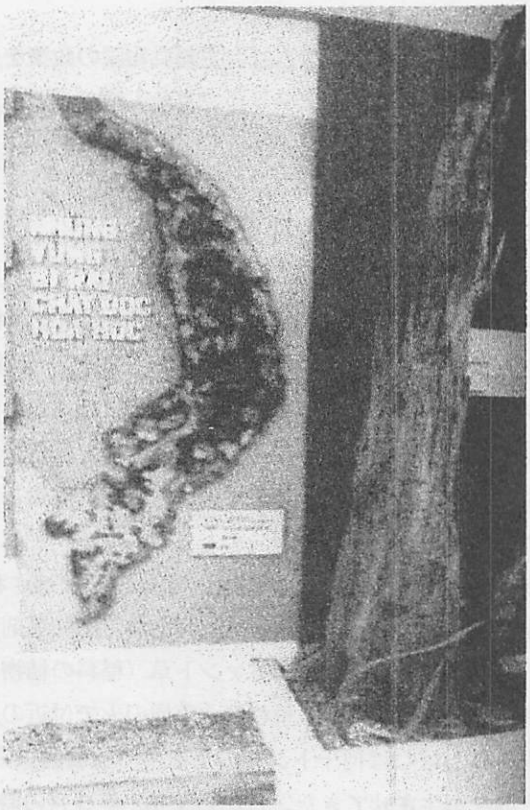
17 同上、p. 1.

18 John Spragens Jr. 'The Way It Was', *South East Asia Chronicle*, No. 76, December 1980, p. 5.

19 'Agriculture in South Viet Nam Before and After Liberation', *Viet Nam Courier*, No. 57, February 1977, p. 11.

つまっていた。その通りはきらびやかに輝き、空調施設付きの何百ものバーでアメリカの最新レコードが響いていた。

ジャーナリストのジョン・ピルジャーは、それを「何物も生産しない世界で唯一の消費都市」と呼んだ。1974年のレポートで世銀研究ミッション（WBSM）は、チュー政権が地歩を失わないようにするためだけに、1990年まで少なくとも1100億ドルの援助が必要だと結論した[20]。有名なベトナム評論家であるグエン・カク・ヴィエンがサイゴンのきらびやかさの値段をこう指摘した。



対米戦争博物館の展示。地図中の白い部分は生態環境の全面破壊が行われた地域を示す。Arlene Eisen

「解放区に爆弾が落ちれば落ちるほど、サイゴンには取るものがある。ビル、車、商品は模造品ではないのだから、私はそれを、偽りの繁栄、とは呼びたくはない。これらの物は押しつけがましく、精神に取り憑き、両義性を、つまり新しい社会秩序を創り出している。支払わねばならない代償があまりに高額でも、私はむしろそれを、高くつく繁栄、と呼ぼう。ある国がメルセデスやシボレーや冷蔵庫その他の機械などを買うために石油販売の売上金で支払いをするとしたら、南ベトナムは、そういった物を買うために肉体と血で支払ったのだ。」[21]

南ベトナム経済は、依存、腐敗、失業、インフレといった悪循環の不断の昂進にとらえられていた。もとは農民であった400万人以上の人々が失業状態にあった。約600～700万人は米ドルで支払われる賃金によって暮らしていた。そこにはチューの軍隊あるいは政府の費用は含まれていない。総計して人々の80%は経済的な延命をアメリカに依存していた。アメリカの援助は南ベトナムのGNPの半分にのぼった。この依存は地元の産業を破壊した。有効な資本は、アメリカ人や繁栄するピンプや売春女性やサイゴンの将軍たちに販売する贅沢品に投資された。米軍機やその他戦争で使われた物の屑鉄・金属は、南ベトナム共和国の輸出の90%を構成した。

1975年、アメリカが援助と輸出を削減すると、物価は急上昇した。莫大な人数に上った貿易業者たちは退蔵を開始した。物価の高騰に拍車がかかった。噂がある種の集団パニックを広めた。

アメリカからの施し物で生活することに慣れた人々は、パニックを起こした。粗糖を輸入して操業していたサトウキビ圧搾工場、粉ミルクを輸入していた瓶入り飲料品工場、パルプを輸入していた紙工場その他の多数の企業が機能しなくなった。原料やスペア部品や外国人技術者を失うと、南ベトナムのホンダに乗っていた世代は歩くことを学ばねばならなかった。多くの人がそうしない道を選び、難民になった。共産主義者による血の粛清から逃れるのではなく、貧困ときつい仕事から逃れた難民たちである。1978年ベトナムの

20　Sprangens, op. cit., p. 5.

21　Nguyen Khac Vien, 'South Viet Nam: 1976', *Veit Nam Courier*, No. 47, April 1976, pp. 6-7.

一人あたりのGNPは一年100ドルと見積もられていた。[22]

女性に対する犯罪　1．レイプ

レイプの話題を欠いては、ベトナム戦争物語の集成はあり得ない。例えば第一海兵師団のカミール軍曹はこう証言した。

「我々が村へ行き、一帯を捜索するとき、村の女たちに着物を全部脱がせ、女がどこにも何も隠していないことを確かめるためにペニスを使ったものさ。これはレイプじゃなく、捜索としてやられたのさ」

アメリカル師団のSp/4ジョー・ガルバリーは報告した。

「私たちはその村へ行った。8人でのパトロールだった。農民の家に入った。人々は米兵が自分たちに何をするか気づいていた。だから自然に若い娘たちを隠そうとした。私たちは自分の家の土台の所にある防空壕に隠れている女を見つけた。彼女は引っ張り出され、家族の前で、そして私たちと村人たちの前で、6人か7人にレイプされた。これが唯一の事件ではない。私が思い出せる最初の事件だというだけだ。私は少なくとも10や15はそんな事件を知っている。」[23]

10年後、ベトナム戦争の退役軍人たちは今もまだ自分たちの犯罪に取り憑かれている。

「私は力を得た感覚を持っていたんだ。破壊の感覚だ。見ろよ、今のアメリカじゃ、人は赤ん坊みたいに扱われている。何をしなきゃいけないか言われてるのさ。…だがベトナムじゃ、自分には命を奪う力があるってことを悟っていた。女をレイプする力があり、誰も何一つ口出しできない。その神のような感情があの現場にはあった。私は神のようだった。私は命を奪った。女をやることができた。…」

別の米兵は思い出した。

「男たちをあつめて女のいない場所に連れて行った。…そうすればもう女を自由にすることができた。自分たちとは違う文化、違う肌の色、違う社会の女だ。売春婦なんていらない。M-16があるんだから。なんで女に金を払わなくちゃならないんだ。村に行けば欲しいものは何でも奪ってきた。そこに行くまでは、そんな状況のなかでのセックスなんてしたことのない奴らだったと思うよ。二重の経験を踏むのさ。女をレイプして、殺す。それで二倍立派な兵士になれるってわけだ。」[24]

南ベトナムではどの村もみな、アメリカの爆弾、ナパーム弾を逃れることができなかったのと全く同様、

22　数字は1982年秋のJayne Wernerとの個人的なやり取りに基づくもの。Nayan Chandaが'South East Asia Isn't the Monolith the West Anticipated', *The New York Times*, 11 Septemeber 1977.で160ドルと述べている。

23　David Hunt, 'Organizing for Revolution in Viet Nam', *Radical America*, Vol. 8, No. 1-2, January-April 1974, pp. 39-40及び *Winter Soldier Investigation* (Boston: Beacon Press, 1972), p. 26.において David Huntが引用したもの。米軍によって壊滅させられた村の詳細については以下を参照のこと。Jonathan Scell's *The Village of Ben Suc* (New York: Vitage, 1967). またレイプについてはChapter 4 of Arlene Eisen Bergman, op. cit.

24　Mark Baker, *Nam: The Viet Nam War in the Words of the Men and Women Who Fought There* (New York: Morrow and Company, 1982), pp. 152 and 166.

レイプを逃れることもできなかった、と言ってよい。アメリカ社会で養われた人種差別主義と女性蔑視が結びつき、レイプは国防総省の手中にある便利な道具になった。レイプを兵士の士気高揚の方法として、奨励しないまでも大目に見るのが、文字に書かれない国防総省の政策であった。米兵はベトナムで正当な大義を失っていても、少なくともレイプという家父長的伝統において「男らしさを証明」することができた。

レイプはまた米軍の作戦立案者には別の戦略的目的にも役立った。テロリズムは、人民戦争に対抗する古典的なゲリラ鎮圧作戦である。そしてレイプは、女性を攻撃し破壊する古典的なテロリズムの行為であるはかりか、女性の家族とコミュニティーに屈辱を与え、怖じ気づかせるものでもある[25]。多くの社会でレイプされた女性は落伍者であり、第三世界と同様に多くの西欧諸国でも家父長制的解釈のために彼女がレイプの犯人を挑発したのだと思われてしまう。「彼女がそれを求めた」。彼女は不浄視される。解放後のベトナムにおける政策は、レイプされた女性をアメリカによる攻撃の犠牲者として扱うことだった。革命家のカードルたちはレイプ犠牲者に汚名をきせる伝統的な恥意識や偏見に対して積極的に闘争した。それでも傷は残っている。レイプの恐怖は忘れられない。手足の切断や病気は容易に癒えない。その子の出自がどうであろうとも、予期しなかった出産が母親にとって負担であったとしても、恐怖の中で身ごもられたその子供たちも愛をうけねばならない。

女性に対する犯罪　2．買売春

チュー政権は、買売春は非合法だと公式に主張した。が、サイゴンの役人は率直に説明した。「アメリカ人には女の子が必要なんだ。私たちはドルが必要だ。どうしてその交換を慎まねばならないのか？それは国が米ドルを稼ぐ、汲めども尽きぬ源泉なのだ。」[26] 米軍占領のピークでは、南ベトナムにほとんど50万人の売春女性がいた。ほとんど各GIに一人の女性がいた。この数は女性医師や専門職に就く女性の合計人数より20倍にものぼる数の売春女性がいたということである。売春女性のいる光景は、アメリカによる占領で女性が利益を得ているという印象をしばしば与えるアメリカのジャーナリストたちを魅了した。

> 「聾唖の娼婦グループがある。娼婦はたいてい14～15歳で、もっと若い子すらいる。娼婦たちを監督する一人の女がいた。娼婦たちは夜にコンチネンタルホテルに至近のTu Dor通りの角で、通常、夜間外出禁止令で禁じられる時間になる直前に群がっている。…この夜、私が見かけたその娼婦の中の何人かは過去10年の間に老けこんで、顔がやせていた。彼女たちは街中の通りの角に立っていて、夜遅くなってからうろついている客に拾われるのを願っている。この時間もまた、ピンプたちがバイクの背後に少女たちを乗せ、客に売り込んでいる。」[27]

ベトナムの水準からいえば裕福になった売春女性もいるかもしれない。だが全員が野蛮な搾取を受けている。プレイクに駐留していたある帰還兵は、「罪の都市」は、基地造営の30月以内に出現したが、そこでは売春宿の部屋ー実際にはテントーに15か20のベッドがあったものだ、と語った。彼は「彼女たちはセックス一回で300ピアストルを得ていた」と思い出した。300ピアストルは公式には3米ドルと同じだが、闇市場のディーラーを通すと約1米ドルになった。売春女性が相場を引き上げようとすれば、米軍のMPが彼女たちの施設に「オフリミッツ（立入禁止）」を宣言した。類似の歓楽街が米軍基地のある所はどこに

25　米軍がレイプをいかにして奴隷に対するゲリラ掃討作戦の武器として活用したかに関しては、以下を参照のこと。Angela Davis, 'Reflections on the Black Woman's Role in the Community of Slaves', *Black Scholar*, December 1971.

26　Thanh Nam, 'In the Shadow of the American Embassy', *South Viet Nam in Struggle*, No. 164, 11 September 1972, p. 2.

27　*New Yorker*, 15 April 1972, pp. 52-4.

でも現れた。フーロイの別の歓楽街では夜は民族解放戦線がその地域を支配していたので、日中の時間だけ稼動していた。[28]

50万人の売春女性の間には様々な形態があり、それぞれが顧客の要求を適えていた。田舎の前哨地点では、「戦車とスクリュー」という広告が示すように、複合的サービスを提供する人たちもいた。白人GIは黒人GIと同伴した女とはつきあわなかったことから、アメリカ人の持つ差別の習慣を知った売春女性たちもいた。GIは日ごと、週ごと、月ごとの「借妻」もできた。そんな結婚は、年季奴隷に似通っており、女性に性の提供者と召使いの兼任を余儀なくさせた。多くのGIは妻を借りる方が気に入っていた。忠実な妻のほうが、比較的、性病に感染したり感染させたりしないと考えてのことである。ベトナムではGIは高級植民地行政官用に予約された贅沢品の中で生活ができた。

「奇妙に聞こえるが、私にはハウスボーイと、最初はガールもいたのです。ハウスガールはやって来て私の靴を磨き、ベッドメークをし、私のために洗濯をし、私の家の世話をする。何でもやって、一ケ月全部で7ドルでした。」[29]

GIがベトナムを去ったとき、売春女性たちはヘロイン中毒、貧困、自己嫌悪のサイクルにはまったままであった。おそらく大部分が性病に感染していた。アメラジアンの子どもは母親に愛されはしても、彼女に惨めな過去を思い出させる存在になった。サイゴンが解放されるや否や、売買春禁止令が布告され、女性連合会は何千もの失業女性のために住居、食物、新しい技能を見つけるための大キャンペーンを開始した。売春女性の大部分は田舎へ帰った。だが何千もの女性が諸都市に残り、自分の尊厳を回復するために莫大な社会的資源の支出を得た。

女性に対する犯罪　3．麻薬中毒化

現在ホーチミン市郊外の新青年学校（SNY）は、針、フィジカル・セラピー、政治的職業教育を細心に組み合わせて、薬物依存の犠牲者が自分の人生に対するコントロールを回復できるよう援助を提供している。SNYの一室は、南ベトナムにヘロイン嗜好を蔓延させたアメリカの責任を示す展示にあてられている。展示されているある写真は、8歳位の小さな少女にマリファナ煙草を渡している巨大なGIの姿を写している。

フランスは1865年ベトナムに阿片貿易を押しつけたが、1964年までヘロインはわずかしか存在しなかった。が、ヘロイン使用量は1970年までに400%になっていた。インドシナは、CIAとCIAが経営するエア・アメリカに支えられて国際ヘロイン売買のハブとなった。CIAはブームになったヘロイン貿易からの収益で多数のベトナムの役人を買収し忠誠を得た[30]。チュー政権の文書によれば、1975年にサイゴンだけで15万人のヘロイン中毒者がいた。そのほぼ85%は35歳以下だった。

SNYの教育責任者ファン・グエン・ビンは薬物使用者の傷跡を描写した。

> 「かれらは麻薬中毒の他、性病や結核やマラリアにも感染しています。しかしかれらの最も危険な病気は、精神的なものです。かれらは社会的人格を破壊されたのです。自分自身や家族、あるいは社会への信頼を失っていた。仏教徒の人もいますし、カトリックの人もいます。でも

28　Jonathan Schell, op. cit., pp. 108-9.

29　Norma Juliet Wikler, *Viet Nam and the Veterans' Consciousness* (Berkeley: University of California, Department of Sociology: PhD Dissertation, June 1973), pp. 136, 170. 東南アジアの売春婦に対して、彼女たちを尊重するまなざしからのものとしては以下を参照。Stanley Goff, Robert Sanders with Clark Smith, *Brothers: Black Soldiers In the Nam* (London: Arms and Armour Press, 1982)

30　Alfred McCoy, *The Politics of Heroin in South East Asia* (New York: Harper, 1973)

宗教が何であれ、皆、ドラッグこそ神だと信じていました。もし麻薬嗜好をやめたら麻薬の神様が自分を殺すと、本気で信じていたのです。酷い抑鬱に苦しんでいました。1978年になっても我が校の学生の約50%は窃盗ギャング団に所属していました。どの依存症患者も麻薬を止めたいのですが一人ではそうできない。私たちはかれらの信頼を再建するこのセンターで懸命に活動しています。かれらにこう言っています。『貴方たちには罪はないわ。貴方たちは植民地主義文化の犠牲者だというだけよ。いまからでも貴方が祖国に貢献するのに遅すぎはしない。依存症と闘うことを通じて、貴方は祖国に偉大な貢献をすることになる。』」[31]

このような学校には、その学生たちに食べ物や衣料を与え住まわせ世話をするための資金の支出が必要である。一般に、十分に健康が回復するまでに一年間、学生は学校で過ごす。約20%の学生には一年以上の時間がかかり、15%はまた舞い戻ってくるが、何千人もの人が永続的に生産活動に加わった。1981年にビンは、ホーチミン市には最も重い依存症患者が五千人残っているだけだと見積もり、83年までにSNYはもう必要がなくなって工場に転換するだろう、と考えていた。だが私が1981年秋にベトナムを訪ねたとき、注射器は、ホーチミン市の元コンチネンタルホテルに近い通りでの小商売で公に販売されている、最もありふれた商品の一つだと思われた。

女性に対する犯罪　4．文化的な「中毒化」とポルノグラフィー

アメリカは、ベトナム人のマジョリティーの心理と思考をつかもうとする試みに失敗した。だがアメリカは、20年間にわたってサイゴンの支配地域において合法的な情報や教育の全機関・全施設を支配した。それは南ベトナム民衆の文化と意識に深刻なダメージを与えた。この20年間に、共産主義者による残虐行為や北ベトナムによる侵略や大量殺戮や復讐といった物語でアメリカによる侵略を正当化するために、アメリカの情報機関CIAとアメリカ政府の全機構が動員された。

国防総省秘密報告書は系統的に嘘や他の「汚いトリック」を利用する。彼らの心理戦キャンペーンを自慢する将軍や国防総省と国務省のトップ官僚たちによるメモは、詳細な記録として保存されている[32]。サイゴンの若者の教育に対するアメリカ支配の成果の例として、ベトミンへの参加者だったヴォー・ティ・テーは、「サイゴンにいる四年生になる私の甥」が、叔母の経歴にもかかわらず、「ホーチミンがジュネーブで南ベトナムをフランスに売りとばし、ジエムが祖国を救うために帰国した、と習ったのよ」[33]と慨嘆した。

サイゴンでアメリカ企業の秘書として働いていたある女性は、サイゴン解放後、アメリカに逃げた。独身女性は肢体を切断したベトコンとの結婚を強制されるというCIAが後援する流言を真に受けたからである。サイゴン解放後も、心理戦は続いた。子ども予防注射キャンペーンの活動をしていた女性連合会のあるカードルは、こう説明した。

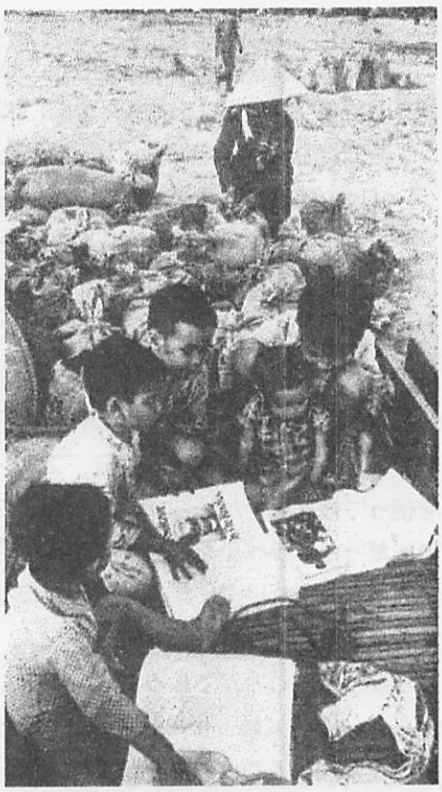
「私たちはコレラや破傷風、チフスやその他のあらゆる予防可能な病気に対して解放直後から子どもたちに予防注射をする活動を始めたのです。けれども親たちに子どもをヘルスセンターに連れてこさせるのにたいへんな時間がかかりました。町中で噂が猛威を振るっていたのです。子どもに予防注射をするのでなく、負傷した『ベトコン兵士』に輸血する血液をその子

31　著者によるファン・グエン・ビンへのインタヴュー（1981年9月9日ホーチミン市）

32　初期の心理戦技術に関しては*Pentagon Papers* (New York: Bantam, 1971), pp. 55-60. を参照。

33　Donna Futtermanによるヴォー・ティ・テーへのインタヴュー（1975年7月22日。未発表メモから）

たちから採取している、というわけ。私たちカードル全員が自分の子どもに先ず予防注射させるビッグ・ショウをしなければなりませんでした。そうやって初めて他の人々に信用してもらえたの。後から私たちは噂を流した何人かを捕まえることができました。その人たちは自分の罪を公に謝りましたよ。」[34]



米軍が作った「戦略村」の子どもたち
Viet Nam INC.

ベトナム民衆の政治志向をコントロールする試みは、米の侵略の正当化を企図しただけでなく、抵抗精神を失わせ、士気を喪失させることを企図していた。現在ホーチミン市の大学で文学を講じているチュオン・トゥエット・アンは、反共プロパガンダの歳月がいかに彼女に影響を与えたか説明した。

「私は外国支配下の生活を意識した人間の屈辱を知りました。祖国の偉大な歴史を理解しなかったからではないのですよ。私はただ、自分が絶えず抑圧と外国支配を受けている弱小で遅れた民族の一部だと考えて苦悩したし、祖国の奴隷化に直面して無力であることを恥ずかしく感じていました…私は、祖国の野蛮な戦争が『独裁的な共産主義者側』と『自由な民族主義者側』(『自由側』で、汚く卑劣なことが行われていることも同時によく気づいていたのですが)の間で起こっているのだ、と信じていました。だから私は祖国か自分自身のいずれかのために袋小路から脱出する道を見つけることができませんでした。結果的に私は、前体制下での政治状況にわずかしか注意を払わず、詩という象牙の塔に自分を閉じこめたのです…」[35]

解放後すぐに、米国の戦争犯罪に関する博物館がサイゴンで公開された。展示物にはベトナム人民に対して行われた文化的攻撃と同様、ジェノサイドに関する注意深く詳細な記録もあった。あるアメリカのジャーナリストは、「サイゴンの旧政府は敵対的または批判的な報告を全部検閲した」と述べた。[36]

アメリカはまた、「アメリカ流生活方法」に栄光を与えることによって、人民の抵抗精神を挫こうとした。自分のポータブルラジオをそれぞれこれ見よがしに見せびらかすGIたちは、アメリカ経済が提供できる恩恵を見せつける、歩く広告塔になった。彼らはまた美の西欧的基準を押しつけた。何千人ものベトナム女性が美容整形の試練を受け、アメリカ流の大きなシリコンで膨らませた胸、シリコンで膨らませたヒップは、彼女たちをいっそう客たちにとって魅力的にした。それら全てがGI「ジョン」からもっと高値の物を得ることにつながった。『ニューヨーク・タイムズ』の記事にはこうある。

「ドクター・バンは、彼が『自然なアジア人の欠陥』と呼ぶものを一時間以内で作り替える。(彼には五人の医師のチームがある)彼はこうも言った。『女性のコンプレックスを取り除くこ

34 著者によるチャン・タン・トゥエットへのインタヴュー(1981年9月9日ホーチミン市)

35 Truong Tuyet Anh, 'One Year with the Revolution", *Viet Nam Courier*, No. 57, February 1977, p. 27.

36 Frances Starner, 'The Streets of Ho Chi Minh City', *San Francisco Bay Gurdian*, 17 October 1975, p. 12.

とで私たちは女性に自信を与え、心のあり方を変える。それはすごく面白いことですよ』」

ファッションはそこ（目や胸）に留まらない。ヨーロッパ人を真似たいという熱意で、高い鼻、頬の骨、裂けた顎…太い指さえ望むベトナム女性たちもいる。手術のパイオニアは前副大統領の魅力的な妻グエン・カオ・キーである。…美容整形にはリスクもあると、医師タイ・ミン・バは語る。彼はしばしば整形手術を行ったことがあるが、他の手術での失敗を修復し継ぎ接ぎするために時間の半分を費やすのだという。」[37]

ウエイトレスとして働く、あるいは通りを歩いているベトナム女性の多くは、身体を欧米化する経済的余裕がない。彼女たちは自分の名を欧米化するところで落ち着く。スアンはベトナム語で春の意味だが、それはアンになる。フオン（花）なら、フランだ。あるGIたちは、ベトナム女性がヘアスプレーだと錯覚する缶を使って彼女をいかにベッドへと誘惑することができるか自慢していた。実際にはそれはスプレー式洗濯糊の缶だった。ラベルを読める女性はわずかしかいない。ごくわずかに英語を喋る一方、自分のベトナム語を読み書きできないままだ。高価な欧米スタイルのドレスを身に纏えるサイゴンの役人や為政者の妻たちでさえ、その多数が非識字者であった。

しっかり読むことができる者に向けて、CIAは米国内で印刷されるよりも多くの本や雑誌を南ベトナムに輸出した。そこには、こんな巻頭言が載った。「幸せとは何か？そんなものはありはしない。受容のみが、現実を受け入れることのみが全てだ」[38] アメリカの戦争犯罪博物館の一室は、南ベトナムに輸出されたポルノに関する図表や幾つかの例を特別展示にあてている。ガイドがポルノが持つ屈服的機能を注意深く説明し、展示を興味本位に覗くような見物が行われないようにつとめている。サイゴンが初めて解放されたとき、学生や他の若い人々は通りをきれいにし、女を侮辱するサインや広告掲示板を塗りつぶすイニシアティブをとった。かれらはまた、士気を阻喪させるポルノ的な文学を回収した。だが六年後、退廃的な音楽や文学その他が再び表れつつある。

「私たちは当初、文化的帝国主義の重要さと強力さを過小評価していたのです。今では、社会主義打倒を求める音楽を助成するネットワークが組織されていることが確認されています。かれらの文学はポルノ的で敗北主義的です。それは文化的な『中毒化』の陰謀です。私たちのHom Thomキャンペーンは、この新しい心理戦との闘争がねらいです。ポルノ的で敗北主義的なものを印刷・配布する人々は処罰されます。利用者は犠牲者と考えられます。が、禁止するだけでは十分ではありません。私たちはより健康的な文化を創出し、普及させなければなりません。」[39]

彼女が言及した読み物は、1981年ホーチミン市にも見つかった。ベトナム語で書かれているが、しばしばアメリカで出版され、無料撒布されている。これらにはベトナムの陰惨な絵が載っている。また裸の女性と前サイゴン体制の剥がされた旗が描かれた1981年のカレンダーが何百とあった。そのキャプションには「いつもベトナム人であることが誇り」とある。

そんな読み物よりも、音楽の方が人気があるようだ。作曲家の一人はファム・ズイで、彼は1954年にベトミンから離脱した人物である。戦争中サイゴンのプロパガンダ装置として働いた。彼の最近の歌はアメリ

37 *The New York Times*, 21 May 1973.

38 Ann Froines, 'The Cultural War: Smack, Pimps and Coca Cola', *University Review*, April 1972, p. 19.

39 著者によるブイ・ティ・ミへのインタヴュー（1981年9月8日ホーチミン市）

カでテープにされ、タイトルは「さよならサイゴン」や「残る人々へ」その他、ベトナムを離れるよう人々を奨励している。ヴォイス・オブ・アメリカは南中国とフィリピンとベトナムの沖合の送信機から放送されていて、この音楽を特集している。歓迎されざるアメリカの「贈り物」が、ベトナム再建の努力を掘り崩し続け、性的搾取や冷笑、ペシミズム、利己主義の心理を助成している。

民族和解問題

民族和解政策は、いまだに南ベトナム社会を苦しめている文化的「中毒化」に対する政治的解毒剤だ。民族和解は、ホーチミンの教えに由来する。「ベトナムは一つだ。ベトナム人民は一つだ」。その政策が仮定するのは、ベトナム人の間には犠牲者も被征服者もいないということだ。唯一敗北した敵は、アメリカ帝国主義である。実際戦争中は、どの家族の中にも相手の側に属する者がいた。それが和解の深さと精神を物語っている。

南ベトナムの臨時革命政府は1975年のサイゴン勝利以前さえ、民族和解の政策を実行し始めていた。1974年に私が解放区を訪問したとき、臨時革命政府の副厚生大臣ブイ・ティ・メーは、そこで穏やかに暮らす元サイゴン軍兵士を私に紹介した。臨時革命政府と女性連合会は、復讐よりも和解を励ますような方法で人々を教育するため特別なステップを踏んでいる。ブイ・ティ・メーの説明は、実質的なナショナリズムに基づくものだった。「もし私たちが復讐をしたら、ベトナム化の罠にはまってしまうでしょう…。それはアメリカ政府にベトナム人同士を敵対させることを許してしまうことでしょう。どのベトナム人も私たちの敵ではない。敵はアメリカ政府だけです。チューはベトナム人ではない。彼の血管にはアメリカ人の血が流れているのよ。」[40]

アメリカが後援したチュー政権には、百万以上の兵士や役人がいた。彼らはたいてい意志に反して徴兵されていた。だが、ベトナム人民に対して深刻な罪を犯した者もいる。1976年初めまでに再教育の様々な機会を経て、彼らの95%は完全な市民権を回復され、社会に再統合された。1976年4月に彼らは統一された第一回全国議会に投票した[41]。再教育（ホクタップ：共産主義的教育）が全ての学校のカリキュラムの一部となり、それがあったからこそ和解は可能となった。工場の労働者たちもまた、組織や経営や利益分配などの問題を討論する会議でホクタップに従事した。

居住の近隣で開かれる街頭集会では、フランス植民地主義・独立戦争・アメリカによる侵略と戦争犯罪・共産党と祖国の未来といったテーマのレクチャーも行われた。新聞やラジオ、テレビでも、類似のテーマで討議が行われた。近隣で催される展覧会は課題を明示した。旧体制の兵士・役人・政治家の全員に最下限3ヶ月間の義務的再教育があった。兵士・役人・政治家以外の人には再教育はもっと不定期であった。アメリカ政府主管の職場で働いていた元秘書が、自分の安堵感をこう描写している。

> 「解放は自分みたいな人間にはおしまいだ、と思っていたの。何日かして全員に登録するようにと要求が来たとき、『ついに来た』と思ったわよ。でも私は15分で全部済んでしまったし、その後は、私の仕事のことを誰からも二度と訊かれなかった。実際、兵士たちが私の家の周りに来たときも、私たちに十分米が足りているかどうかチェックするためだけだったわ」[42]

40　著者によるブイ・ティ・ミへのインタヴュー（1974年解放後のクワンチ省にて）

41　1980年ベトナム当局は再教育キャンプにまだ2万人が残っているとしていた。'Written Reply of the Vietnamese Government to Amnesty International Memorandum, September 1980', in *Report of an Amnesty International Mission to the Socialist Republic of Viet Nam* (London: Amnesty International Publication, 1981), p. 26.

42　Rami Chabra, 'Adjusting to New Life in Viet Nam', *San Francisco Chronicle*, 15 August 1975, p. 4.

チュー政権の役人に対しては、その人の犯罪がどのように極悪であっても、当局による処刑は一件もなかった。ドゴールは回想録で、ナチに協力した容疑で処刑された2,070人のフランス人について語っている。ドイツ人の恋人がいたフランス人女性たちは頭髪を剃られ、街頭で公に侮辱された。ベトナムの革命当局は、人々の復讐行為を防ぐために慎重なステップを踏んだ。

が、和解は順風満帆だったわけではない。人々、とくにサイゴンの人々は、しばしば再教育集会に非協力的だった。イギリスのジャーナリストが報告している。

> 「取り憑かれたように食物やその欠乏が議論された。ある近隣再教育セッションで、官僚が決めた乏しい分配記録について不満がくすぶっていた。『文句を言うべきじゃない』と面白見のないカードルが言った。『アメリカ人があんたの赤ん坊の肉を食べていた時代よりマシじゃないか！』このときある老女がぴょこんと立ち上がって、叫んだ。『くだらない！アメリカ人はいつも缶詰ばかり食べていたじゃないか！みんな知っているよ』聴衆は爆笑し、つかのまの反乱を喜び、楽しんだ。何百万もの同意見の異端者を再教育するのは容易なことでないだろう。」[43]

こんなふうに言う人々もいる。「あんたは私を許すの。でも、私は疑い続けたいわ。アメリカがすぐ戻ってくるのを願いながらね」。貯め込んできた黄金で生活するのはわずかな人々だけで、何千人もの人々が海外の親戚から送られてくる贈物で生活していた。かれらは自分の持物を荷造りし、ベトナムを去る最初のチャンスを待っている。ごく少数の人々が、積極的に政府の転覆を企んでいる。

1981年秋の時点で再教育キャンプに残っているのは、1975年以後に反革命活動を執拗に繰り返した人々だった。すなわちハイフォン港に対する放火犯たち、1979年にハノイ駅に爆弾をしかけた犯人たち、アメリカもしくは中国の奨励を受けて別の形のサボタージュを試みた人々であった。また帝国主義に対して神話的な理想を抱き、自分の理想を機会あらば危険な実行に移すであろうと政府が危惧する人々であった。これらの人々の再教育を意図して特別再教育プログラムが作られた。当局が、積極的に再び信頼される市民になろうとしている人々と、社会への危険であり続けている冷笑的反革命の人々とを識別するには、かれらの過去を全面的調査する時間が必要であった[44]。

ホーチミン市その他の南部都市にいる大勢の、おそらく何十万もの革命政府を冷笑する人々は、民族和解に対する最大の挑戦であった。そのなかにはごく貧しい人もいたが、たいていは専門職従事者や小ビジネスのオーナーであった。かれらは、経済的政治的動員を積極的にサボタージュするよりも、消極的に抵抗した。自分の経済状態の悪化をこぼし、自分が革命家のカードルよりもっと文明的で洗練されていると考え、革命が彼らに何か与えるのを冷笑的に待っている。集団労働を馬鹿にし、女性連合会のような諸団体には参加する気がない。かれらは革命家のカードルや制度に対する公衆の信頼を掘り崩し、噂を流し、政府の失敗や弱さを誇張して言い立て、政府が達成したことについては無視する。アメリカで活動するベトナム愛国者協会(AVA)は積極的にベトナム社会主義共和国を支持しているが、その会員たちはこれらの中傷者が作り出した諸問題を重要だと信じている。グエン・ルオンの『サイゴン陥落後』と呼ばれるベトナム「脱出」の記録は、中心になる事例である。彼はアメリカで政治学の博士号を取得し、1972年にサイゴンに戻った。彼は反動

43　Pilger, op. cit., pp. 15-16.

44　これに関しては膨大な宣伝や論争が存在している。ベトナム政府はこれらの人々を再教育キャンプに留め置く権利を主張しているが、アムネスティ・インターナショナルはこれを認めていない。ベトナムが人権侵害を行っている疑いがある、というアムネスティ・インターナショナルからの批判については前述の文献を参照してほしい。

的なやり方で学生を教育したと非難され、1975年11月に教職を失った。結局1979年、彼はボートピープルの中に入った。彼の説明では妻が「子どもたちがブルジョアの知識人の子孫として貧困の中で生きてゆく」ことを恐れたからだった。[45]

一方、革命の政策をほとんど尊敬していない何千もの人々が、ホーチミン市の数地区で自由に稼いでいる。この人々は公然と外国人を言いくるめ、非合法の通貨取引をしたり、売春女性の斡旋、盗品販売を行っている。例えばディストリクト・ワンはサイゴンの旧赤線地区だが、再教育とはほど遠いように見える。ベトナムの標準では無分別と思われるようなドレスを纏う女性たちは、ディストリクト・ワンの街路を歩く北部育ちの女性連合会のカードルからひんしゅくをかうかもしれない。だがその二つは共存している。時には互いに闘争することもある。かれらが和解するまでにはおそらく何世代もかかるだろう。私たちが戦死者やベトナムの生態系や経済の荒廃や女性に対する犯罪のリストを見ようと見まいと、アメリカとの戦争の傷は依然として女性解放を危うくする脅威であり続いているのである。

第5章　ベトナムの流血は続いている

> 私たちの子どもたちはまだ穏やかに眠ることができません。50万の中国軍がベトナムの北部国境におり、私たちは準戦時状態にいるのです。
>
> レ・トゥー　ベトナム女性連合会教育部長

（以下の叙述は脚注にとどめるにはあまりにも重要である。本書の他の章とは違い、本章は女性に特別な焦点を当ててはいない。本章は、米国のベトナムに対する「冷戦」、ボートピープルの集団的大移動、ベトナムとカンボジアのポルポト勢力との戦争、中国のベトナム侵略がつくりだした混乱を解明する試みである。私は本章が1975年以後の時代のベトナム女性を理解するために本質的な背景を提供すると信じている。継続されたベトナムへの敵対が本章の主題だが、これは女性の進歩に対するブレーキとして作用しているだけでなく、ベトナムにおける全ての女性の闘いが押し込められた限界とその闘いの優先課題を規定している。）

最後に残ったアメリカ人官吏たちは1975年4月29日、サイゴンの大統領官邸を解放勢力が接収するわずか数時間前にベトナムから逃げ出した。アメリカは南ベトナム支配を維持するために2,750億ドルを投資していた。最後の十年間、ベトナムに任務で派遣された300万人の米兵のうち、約5万8000人が死亡した。別の約15万7000人は負傷した。そしてベトナムに約1,430万トンの爆弾を投下した後、アメリカは屈辱的な敗北を喫した[46]。この敗北が国際的な権力関係を変容させた。アメリカの支配システムは暴露され、そのシステムを深刻に弱体化させた。

サイゴンのアメリカ大使館が閉鎖してからほとんど10年が経つという事実にもかかわらず、アメリカ政府はまだ深くベトナムに関与している。その政策を導いているのは、復讐である。戦略目標は、米軍を敗北させた報いを血と涙で支払い続けることをベトナムに強制することであり、ベトナムの事例に鼓舞されたかもしれない他の第三世界諸国にその勝利があまりにも高くつくという教訓を教えることであり、アメリカ人があの恥じるべき冒険を自慢し続けることができるように、そしてアメリカ政府が世界の他の部分でその帝国主義的冒険の継続を正当化することができるように、ベトナム戦争の歴史を書き換えることである。

企業による支配体制は絶え間なく拡張せねばならないから、仮にもシステムを存続させるには、そのシス

45　Nguyen Long with Harry Kendall, *After Saigon Fell* (Berkeley: University of California, Institute of East Asian Studies, 1981). ベトナム戦争中、国務省に助言してた政治学者 Robert Scalapino がこの本の前書を書いている。

46　Le Anh Tu, 'Viet Nam: The Legacy of War' (Philadelphia: American Friends Service Committee, 1975).

テムが支配する政府は敗北を受け入れることはできない。ベトナムであれアンゴラやニカラグアであれ、アメリカ政府はそれらの政権を露骨に転覆できないまでも、革命後の社会を不安定化し、分裂させようとする試みに固執している。その目的は、できるだけ社会主義的発展を弱め、それによってアメリカ自身が覇権をにぎる潜在力を強めることである。

復讐

1973年1月27日に調印されたパリ平和協定の第21条において、アメリカはベトナムが戦争の傷を癒す手伝いをすると合意した。リチャード・ニクソン大統領は1973年2月1日にファム・バンドン首相への約束状にそのような性質の援助を明記した。

1．米合衆国政府は、*一切の政治的条件無しに*、北ベトナムにおける戦後の再建に寄与する。（斜体はアイゼンによる）
2．…米国の支援は、5年間で無償援助32億5千万ドル程度で行われる。他の形態の援助は二者の間の合意に基づいて行われる…

ニクソンは、条約は無効だと主張した。ニクソンを引き継いだ三人の大統領はこれらの条約上の義務への違反を正当化するためにそれぞれ付加的な諸理由を見つけだした。

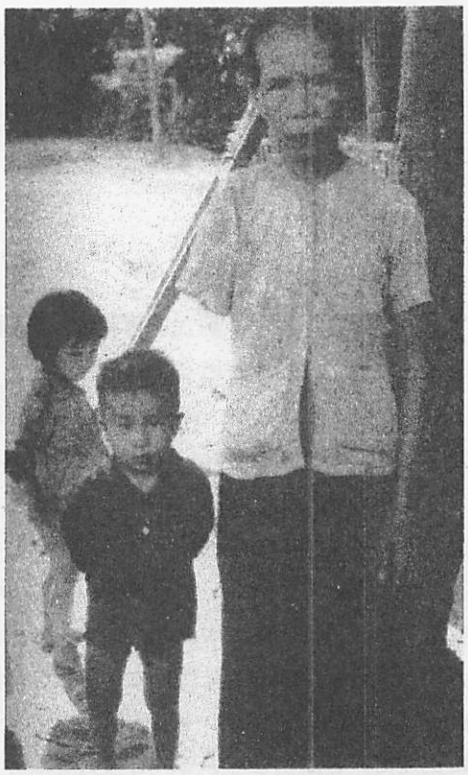
それで、アメリカには何百万ドルもの値段のブルドーザーやクレーンや他の建設装備が廃棄された建設プロジェクトのかたわらに放置してある一方、ベトナムの女性たちは新しいビルの建設のためにシャベルとつるはしで土台を掘っている。女性たちは手彫りの棒で地面の土を運びながら爆弾で壊された堤防を修繕し、手彫りの棒を使って爆薬が入ったまま田畑に残された兵器を捜索しているのである。彼女たちはまた、ダイオキシンで発癌した肝臓を継ぎ接ぎした再利用の外科手袋をはめて上手に手術している。アメリカ政府のベトナムに対する復讐への渇望は、他国諸政府にベトナム援助をさせない圧力を意味した。アメリカが強制した経済制裁は、ベトナムで原料やスペアの部品や経済発展のための技術支援の慢性的不足状態を引き起こした。莫大な戦費を費やして破壊したベトナム経済に、今度は通商禁止という攻撃をかけたのだ。1979年、アメリカ政府はEECに圧力をかけ、ベトナムへの粉ミルクの積み出しを停止させた。

この経済戦争は、既に支障を来していたベトナムの経済に弔いの鐘となった。1980年、ベトナム経済が米国の食糧という兵器の最悪の効果を感じていたとき、ホーチミン市の小児科病院は400人の重い栄養不良の子どもを扱っていた。医師たちにはその患者たちに必要なミルクの10%しかなかった。ズオン・クイン・ホア医師は臨時革命政府時代の厚生大臣で、現在では小児科調査局長だが、最近WHOの基準を用いて子どもの栄養調査を行った。彼女はホーチミン市郊外で就学前の子どもの28%が栄養不良だと気づいた。市内のサンプルから、5歳以下の子どもの38%が栄養不良に苦しんでいると分かった。これらの子どもの両親は、失業者や貧しい労働者、下級公務員であるとホア医師は説明した。[47]

ほぼ1500万トンにも達した爆弾で破壊しきれなかったベトナム医療を、経済的困難によって破壊できるとは思われない。ベトナムは、アメリカに降伏するよりむしろ耐乏生活をし、経済改革を制度化し、他の国々からの援助を求めた。「ボートピープル」として知られるベトナム経済難民の流出は、1981年までにしだいに減少していった。

47　Murry Hiebert, 'The Food Weapon: Can Viet Nam Be Broken?', *Indochina Issues* (Washington DC: Center for International Policy), No. 15, April 1981, pp. 1-2.

ヴォイス・オブ・アメリカ：「全ボートピープルへの呼びかけ」



ゲリラを支援するため、戦争中ずっと地下壕で生活していた女性。米軍の爆撃で片腕を失った。
Sara Rosner

元は秘匿されるつもりで行われた在タイ米国大使館の報告によれば、1981年に南タイにいる5,000人のベトナム難民のうち政治的理由の難民は27%だけで、経済的理由の難民が63%だった[48]。アレクサンダー・カセラ国連高等難民委員会アジア局長はこの報告を確証し、「人々は、自分が迫害を受けているからではなく、よりよい生活水準を追求してベトナムを離れている」と述べた。[49]

ベトナムに対するラジオ放送「ヴォイス・オブ・アメリカ」は、貧困に打ちのめされたベトナム人にアメリカへ移民して快適な生活を楽しむように宣伝を流した。あるアメリカ人官僚は、彼らのやったことは救助というよりも誘惑のプログラムであり、1981年に彼らは実際の難民の数よりも大きな収容スペースを用意していた、と語っている。保守的な『ファーイースタンレビュー』が思索的にこう述べている。「もし第七艦隊がインド洋に入り、そこに辿りつく人はカリフォルニアに定住できると知らせるとしたら、インド亜大陸からの集団移住はインドシナからの集団移住を小さく見せることになるであろう」[50]。ライオネル・ローゼンブラットは、以前サイゴンの米国大使館職員で、現在は在タイ大使館の難民調整官あるが、アメリカがベトナム難民に避難所を与えるのは人道主義とははるかに遠い動機からだと認めた。「我々のやっていることは、ベトナムにおける我々の戦争の適切な延長だと感じている。アメリカがこの地域における責任を思い出すことが重要だと思う」。[51]

多くの難民は、いったん欧米に到着すると、自分のホストたちが訊きたがっていることを告げた。ベトナムにおける残虐な人権侵害の物語である。真実を認める人々もいた。例えば私は1981年のベトナム訪問前、英語を学ぶベトナム人たちのクラスで、ベトナム訪問中に私に調べてみさせたいことは何か、もしあれば聞きたいと、質問した。かれらの答えが示すのは、生活水準に対する非常な関心であった。

> どうやって人は生活費を稼いでいるか？民間ビジネスはいま許されているのか？サイゴンではまだ電力が切れているか？医者に行ったら一日中待たないといけないのか？まだ闇市場はあるか？大学に行く許可がもらえるのはどんな人？米の配給はどうなのか？砂糖は？麺は？野菜は？政府には女性のための仕事があるのか？チャイルドケアはどうか？出国ビザを認める今の条件はどうなっているか？

---

48 *Far Eastern Economic Review*, 17 July 1981, p. 7.

49 *Far Eastern Economic Review*, 24 July 1981, p. 6.

50 *Far Eastern Economic Review*, 17 July 1981, p. 7.

51 John Pilger, 'Only the Allies Are New', in *Aftermath*, by John Pilger and Anthony Barnett (London: New Statesman, 1982), pp. 91-2.

質問者たちは1979年から80年にかけてサンフランシスコに到着していた。四分の三は、中国系の人、つまり華人であった。1978年以来のベトナムの三百万の華人のうちほとんど半分の集団大移動により、ベトナム批判の火に新たな油が注がれた。

なぜ華人は去ったのか

アメリカと中国は華人難民を専制的な人種差別的追放の犠牲者として描いた。その問題は、複雑である。一千年の中国による植民地支配の年月を経て、いくらかの反中国感情がベトナム人の意識のなかに深い根を下ろしている。ベトナム人の激しい民族的自尊心は、もともと中国の封建的占領に対する抵抗の中で形成された。もっと最近では、多くの中国人は親族の豊かな財産のせいで憤慨をかった。その財産は、ハノイ・ホーチミン両市の闇市場を中国人が支配してきたことから獲得されたものだった。が、ベトナム在住中国系住民に対するある程度の一般的偏見があるかもしれないとはいえ、ホア難民の最初の波は人種差別に対する反応として現れたのではなかった。最初の波は、ホーチミン市の中国系商人のコミュニティーが導いたのである。

第二次世界大戦中に中国とベトナムでアメリカの諜報活動に責任を負っていたアルキメデス・パッチは、蒋介石の連合軍が表向きには日本軍を武装解除するということで1945年ベトナムを占領したとき、蒋介石の商業的財政的エイジェントが専横にその後30年以上続く搾取的経済活動のための堅牢な基礎をインドシナに据えた、と説明している。この人々が今日の「ボートピープル」である[52]。

1978年3月ベトナム政府は、ベトナム経済が抱える問題、投機と退蔵の伝統的温床となっていた民間商業取引の廃止へと動いた。中国商人はそれまでホーチミン市の民間商業の80%を動かしており、この措置で最も手痛い打撃を受けた。かれらが中国人だったからではなく、かれらが社会主義的再建を妨げたからである。かれらは自分の地位喪失を受容するよりも、ベトナムを立ち去る道を選んだ。かれらのほとんどがタイ、マレーシア、その他の資本主義諸国へと移民した。同時に、中国から流れる噂が華人コミュニティーに氾濫した。それらはベトナムと中国の間の戦争が急迫していると予言していた。逃走をたきつける最も効果的な噂の一つは、「もし居続けて中越戦争が起こったら、ベトナム人が私たちを華人だといって殺すか、さもなくば中国軍が私たちを逆賊だと言って殺すかだ」というものだった。

ある華人女性は私に、どうして彼女がそれらの噂を信じたのかを語った。

> 「人々にはあまり情報がありませんでした。かれらは、ポルポトの軍隊がアンザンやタイニンで何百人も虐殺するのを見ていました。だから、どんなことだってありうると思ったのです。カンボジア国境からホーチミン市は短い距離です。華人たちは、中国はすごく大きいからベトナムとの戦争に勝つかもしれないと思いました。華人は1977年にポルポトがタイニンで多くの華人を殺したのを覚えていたのです。ポルポトは、華人とベトナム人を識別しませんでした。生き残った人たちがホーチミン市にやって来て、虐殺の話をしてくれました。かれらは命を落とすのを恐れていました。だから、ボートピープルに加わったのです」[53]

北部ベトナムにいた約30万人の華人の大半が工場労働者、炭坑労働者、港湾労働者、漁民、公務員であった。わずかにハノイとハイフォンで小さな取引をする人もいた。多くの華人難民にインタビューをしたチャールス・ベノイトによれば、北部を離れる華人の動機は三つあった。第一はしだいに増える中越戦争のような出

52　Archimedes Patti, Why Viet Nam? (Berkeley: University of California Press, 1980), pp. 381-2.

53　著者によるドゥ・フ・リェンとリ・キム・マイへのインタヴュー（1981年9月13日ホーチミン市）

来事がもたらす運命への恐怖、第二に中国の故郷へ帰るよう鼓舞する国籍への感情的執着、第三に1978年の闇市場活動に対する弾圧以後のベトナムにおける特権の侵害である[54]。1979年以前に10万人以上の華人労働者が突然逃走したことは、北部の経済を深刻に混乱させた。

中国が1979年2月にベトナムを侵略した後、華人のベトナム脱出がもう一度急増した。かれらにはかれら以前の難民と同じ動機が多くあった。それに加えて、ベトナム政府が北部にとどまる中国系の人々の多数に影響する新たな治安措置を制度化したということもある。国境近くに留まった華人たちは、しばしば第五列として中国の侵略者のためのスパイや道案内の活動をした。ベトナム政府はこれへの素早い対応を余儀なくされた。華人全員を調査する時間はなかった。そこでベトナム政府は、軍事的にセンシティブな地域に暮らすこれら華人たちに新経済地区に移動するか国を離れるかという選択を申し出た。政府はベトナムを離れるほうを選んだ人々には出発準備を援助した。防衛の要件がこの援助を動機づけ、多数の華人が先延ばしにしていた手続きを促進した。

脱出は、南部では北部ほど秩序だっていなかった。南部には経験を積んだカードルが比較的少なかった。欧米メディアが主張したような正式な「出国税」はなかったが、その一方、明らかに中下級官吏による収賄事件があった。

ベトナムに留まる百万人以上の華人は、ほとんどが労働者と農民だった。かれらは通学、労働、徴兵において全ベトナム市民と同様の権利と義務を正式に享受している。国に留まった人々は最初、恐れていた。だが日々の現実が、華人の学校追放や職場解雇といった噂が誤っていることを証明した。何百人もの華人が依然としてベトナム共産党に所属している。華人たちがいったん真実を知ると、留まった多くの人々がかれらに嘘をついた中国当局に憤慨するようになった。ホーチミン市のある華人女性のグループは、華人に対する人種差別的事件を起こすのはふつう前のチュー政権官僚の子弟たちだ、と語った。父親がまだ再教育キャンプにいる一部の子どもたちは華人のクラスメートを虐めたものだった。

現在のベトナムで、華人に対して現実の迫害は行われてないということはおそらく事実であろう。が、私は、華人の情報提供者たちが認めた以上に、微妙な反中国感情が一般的にあると感じた。例えば、少なくとも一度、ある女性連合会のベトナム人カードルが、標準的な人種主義的意味づけを用いて、「華人の親は市場でお金を稼ぐのに子どもを使うことに関心があるので、華人の子どもは学校のことを真剣に考えていないと思う」と私に語った。彼女が言及した子どものほとんどが貧しい労働者階級家族の出身だということは明らかだった。系統的な人種差別的抑圧の歴史は存在しないと考えてよいが、私にはそんな悪感情がどう実行に表れるのか知る方法はなかった。反対に、華人はベトナム社会では歴史的に特権集団であった。

同床異夢

「同床異夢」。ベトナム人は中国と米国の同盟を描写する便宜に、結婚に関するこの伝統的な慣用句を使う。たいていのそうした婚姻において、通常は新郎がより大きな権力をもっている。この場合、アメリカが新郎である。ベトナムの外相グエン・コ・タックは語る。

> 「1979年2月に中国が侵略して以降、わが国の直接の敵は中国です。が、アメリカが中国の背後にいます。アメリカは中国の最大の支援者です。もしアメリカが中国の侵攻に反対すれば、中国は侵攻できなかったでしょう。(1978年9月、タックはアメリカと関係正常化のた

54 Charles Benoit, 'Viet Nam's "Boatpeople"', in David W. P. Elliot (ed.), *The Third Indochina Conflict* (Boulder, Colorado: Westview Press, 1981), p. 151; also Murry Hiebert, 'Viet Nam's Ethnic Chinese', *South East Asia Chronicle*, No. 68, December 1979, pp. 21-5.

めに交渉した。全てが解決したが、アメリカは突然正常化プロセスをうち切った。）12月に、カーター大統領は鄧小平主席の訪米を歓迎し、鄧主席が『ベトナムに教訓を教えるために』威嚇することに賛成したのです。鄧主席が訪米及び訪日から中国に戻った二週間後、中国はベトナムを侵略しました。米国財務長官ミカエル・ブルメンタールは侵攻後に中国に到着し、その侵攻は決して中米関係の正常化を妨げないと宣言しました。…私たちの闘争はいま、アメリカ帝国主義に対する私たちの闘争の継続です。見せかけは変わりましたが、背後には同じ敵がいます。中国を後押しし我々に敵対するよう奨励しているアメリカがいるのです。」[55]

中国共産党の最高指導者がテキサスでカウボーイハットを被り、赤ちゃんたちにキスをしている光景は多くの人々に衝撃を与えたかもしれない。しかし、米中の同盟はそれ以前、少なくとも1972年のニクソン訪中のころからすでに醸成されていた[56]。中国の指導者たちはソ連こそ中国の主敵であると定義するようになったので、中国は米国との同盟を優先するようになった。中国は明らかにアメリカから経済援助を得ようとつとめていた。

数年の間、ベトナムはできるだけ静かに中国との相違を解決しようとする戦略をとってきた。問題が二国間に留まる限りはアメリカがそれを利用することはできないだろうと念願していた。この戦略は惨憺たる失敗であり、おかげで中越戦争が勃発したときにベトナム人民とその潜在的同盟者にベトナム防衛の覚悟をさせることはいっそう困難になった。だが、最近、アメリカは中国との同盟を秘密にしなくなった。1978年中国はベトナムを援助するコミットメントの全てを破棄した。アメリカ国家安全保障会議（NSC）のスタッフであるロジャー・サリバンは、率直にこう語った。

「中国弁証法の言葉で言えば、アメリカの政策はできるだけ激しくベトナムに脅しをかけて、ベトナムがソ連に頼らざるを得なくすることにある。その次に、ソ連にはベトナムの必要とするもの全部を叶えられない、ということをベトナムが理解すればどうなるか…もしベトナムが経済的困難を経験すればするだけ、それは素晴らしいことなのだ」[57]

1981年6月2日、米国東アジア太平洋援助事務局は以下のような声明を発表し、その姿勢を広く知らしめた。「我々は他国と協力してベトナムに対する政治的、経済的、そして軍事的な圧力を増大する道を模索し続ける。そして願わくばその圧力によってベトナム政府が現実に対する態度を変更することを期待している」[58]

米中は、ベトナムの敵である互いの立派な隊列に対して、ベトナムへの攻撃という聖域を与え、軍事的政治的支援を提供することで協力しあった。1970年代にラオスのUSAID役員だったジャック・ウイリアムソンは、現在タイでカンボジア難民キャンプの治安維持を任命されたタスクフォース80というタイ特別諜報部隊を調整している。実際このタスクフォースは、カンボジアでの活動をポルポト側に立って助言し、支

55　著者によるグエン・コ・タックへのインタヴュー（1981年9月1日ハノイ）

56　キャサリーン・ゴフ・エイバールはその著書のなかで、1976年ごろベトナムの政府関係者は私的な会話のなかで「ニクソンが中国を訪問したときにはみんな泣いていた」と漏らしていたと書いている。*Ten Times More Beautiful* (New York: Monthly Review Press, 1977), p. 244. 1954年にまで遡るベトナムに対する中国の背信については以下を参照のこと。Wilfred Burchett, *The China, Cambodia, Viet Nam Triangle* (London: Zed Press, 1981) および the Minister of Foreign Relations of the Socialist Republic of Viet Nam, *The Truth About Viet Nam-China Relations* Over the Last 30 Years (Hanoi: 1979).

57　以下の記事に引用された言葉。John Spragens Jr, 'The Way It Was', *South East Asia Chronicle*, No. 76, December 1980, p. 7.

58　*Far Eastern Economic Review*, 26 June 1981, p. 10.

援している[59]。1981年7月には以下の勢力が汎インドシナ・反ベトナム統一戦線を組織化するために北京で会合した。追放されたポルポト政権のイエン・サリ、元カンボジア右翼政治家のインタムとソンサン、CIAが後援したラオスのモン族の傭兵の指導者であるバンパオ、以前のラオス右翼首相プーミ・ノサバンその他である。

中国はカンボジア、ラオス、ベトナムから様々な反体制派の諸グループのための複数の軍事訓練センターを運営していた。米国はそれらを後援し、タイに在中する複数の反共グループに一年300～400万ドルを流した[60]。

アメリカは、カリフォルニア州サクラメントを地盤とするファム・ヴァン・リュウ大佐が行っているベトナムへの妨害を高く評価していた。アメリカ政府から奨励を受けたわけではないにせよ、明らかに同意を受けて、元サイゴン政権全国警察長官リュウは公然と難民たちを「共産主義者からのベトナム解放」のための小軍隊に組織化し、新兵を補充し、訓練を施している。何千もの人が、リュウらによる「ベトナム解放全国統一戦線」がベトナム内部でいかに拡大しているか報告を聞くため、豊かな財源を持つその集会に出席した[61]。

ベトナムという妖怪

ベトナム戦争中、アメリカ政府を擁護する観念論者たちと膨大な反戦論者たちとの間には巨大なギャップが開いていた。この数年間、様々な政権が国内の批判世論を最小にし、このギャップを閉じることによってアメリカの世界経営の探求を続けようと努力している。ベトナムという妖怪は、アメリカ世論がすべての悪しき教えを信じるようになるまで、アメリカの為政者に取り憑いていく。

そのために系統的なエセ教育が公立学校で始まっている。これはベトナム戦争に反対して行進し、請願し、デモ行進をした全ての人々にとって悲劇的な皮肉だ。この人々の子どもたちは学校で「私たちの国は民主的な南ベトナムの防衛のためにやってきた」と書かれた教科書を読ませられているのである[62]。アメリカのメディアはまれにしかベトナムに言及しないが、アメラジアンの子どもの運命やボートピープル、MIA（行方不明兵）、ベトナム内部の政治犯、いわゆるPO(戦争捕虜)になった間に拷問された人々を哀れむことだけは例外である。人道主義的な理由でベトナム戦争に反対した人々の一部は、ベトナム批判者の合唱に参加してきた。このキャンペーンはジョーン・バエズその他がベトナムにおけるいわゆる抑圧を非難する大きな新聞種になったときにピークに到達した。彼女たちの考えていた事実が間違っていて、彼女たちの情報源が汚染されていたと判明したときや、政治囚だと思われた人々が自由に活動していたり死者とされた人が生還していたときは、新聞の見出しを飾ることもなければ、取り消し声明も載らなかった[63]。

---

59 Pilger, op. cit., p. 95.

60 Nayan Chanda, 'Agree to Disagree', *Far Eastern Economic Review*, 24 July 1981, pp. 13-21; John Spragens Jr, 'Viet Nam's Fight to Rebuild', *Guardian*, 10 Feburary 1982, p. 24. 最近、ベトナム当局は拘束したスパイから、米国にいる反動派のベトナム人の帰還について、またベトナム国内で反体制派を組織し中国で訓練をうけさせるという計画についての情報を入手している。詳しくはThanh Tin, 'Vo Dai Ton and "Project Z"', *Viet Nam Courier*, Vol. 18, No. 8, August 1982, pp. 8-11. またその背景についてはHelen Chauncey and Lowell Finley, 'US Policy and the Crisis in Asia', *South East Asia Chronicle*, No. 68, December 1979, pp. 2-9.

61 Steve Talbot, 'Saigon USA' -Special report broadcast on Channel 9, KQED (San Francisco: KQED, 5 January 1983).

62 William Griffin, Robert Knowles and John Marciano, 'Viet Nam and the American Textbook', *Inochina Chronicle*, No. 48, April 1976, pp. 4-14. 学術的なレベルでの歴史の改ざんについては、Marilyn Young, 'Viet Nam Rewrite', *Bulletin of Concerned Asian Scholars*, Vol. 10, No.4, 1978, pp. 78-80.

63 'Blaming Viet Nam', *Indochina Newsletter* (Indochina Aid and Friendship Project, Boston), No. 8, December 1980-January 1981, p. 1. ベトナムに対する初期の冷戦プロパガンダについては、Arlene Eisen, 'Cold War Against Viet Nam Builds', *Guardian*, 20 October 1976, p. 6.

ごく最近、例えば、リベラルな『ニューヨーク書評』が元臨時革命政府司法大臣チュオン・ニュー・タンの『解放の神話』と称される、辛辣で批判的な論文を出版した。紹介文で編集者はタンが「CIA 共犯者の嫌疑を超える人物」だと主張している。彼らは、タンが自分の反共活動に対する支援獲得を願い国務省と上院軍務委員会との会合のために訪米したことには言及しなかった[64]。また、わずかながら、ベトナムに関して「戦争中の女性解放と民族解放の結婚は、戦争の終結で突然終焉に到った」と当を得ない主張をし、ベトナムに対する冷戦キャンペーンにうっかりと貢献しているフェミニスト批評家たちもいる[65]。彼女たちの分析が豊富な実証あるいは正確な歴史認識をふくむことは稀である。

映画産業は、アメリカのイメージを再び尊敬されるものへ替える努力に大いに貢献している。『地獄の黙示録』や『帰郷』のような幾らか進歩的な映画さえ－これらはベトナムで米国が犯した蛮行についていくらか暴露しており、米国社会に戦争が与えた損害を指摘している－、ベトナムの人々を決して人間として描かないし、独立というベトナム人の大義を正当だと描かない。アメリカの虚構においては、一人として信じられるベトナム人の登場人物を見いだすことは不可能である。戦後のベトナムを描く映画のなかでは、ベトナム人民に対する最も邪悪な攻撃が最も素晴らしい出来事として描かれている。ある評論家はこう書いた。

> 「ハリウッドで大あたりした『ディアハンター』は、『新愛国主義』と呼ばれるむっつりしたアメリカ人の苦渋をやわらげ、同時に意味のない暴力の映画で興行収益を十分満足させ、またベトナム人を腐敗したダメな人間として、ベトナムに行ったアメリカ人を悲劇の英雄として描きだす、という目的のもとに作られた。それは、何百万ものアメリカ人に、彼らがベトナムでやったすべてを瀉下する力強い下剤として歓迎された。今日、『ディアハンター』はもはや単なる嘘ではない。それは米国の政策であり、その政策とは復讐である。…その口実はボートピープルの名による怒りであり，その獲物は中国カードである」[66]

このプロパガンダ・キャンペーンの結果、アメリカのベトナム侵略に 1975 年 4 月まで反対した人々の圧倒的大部分が今では混乱し、継続する攻撃に直面して沈黙している。

ポルポトと中国カード

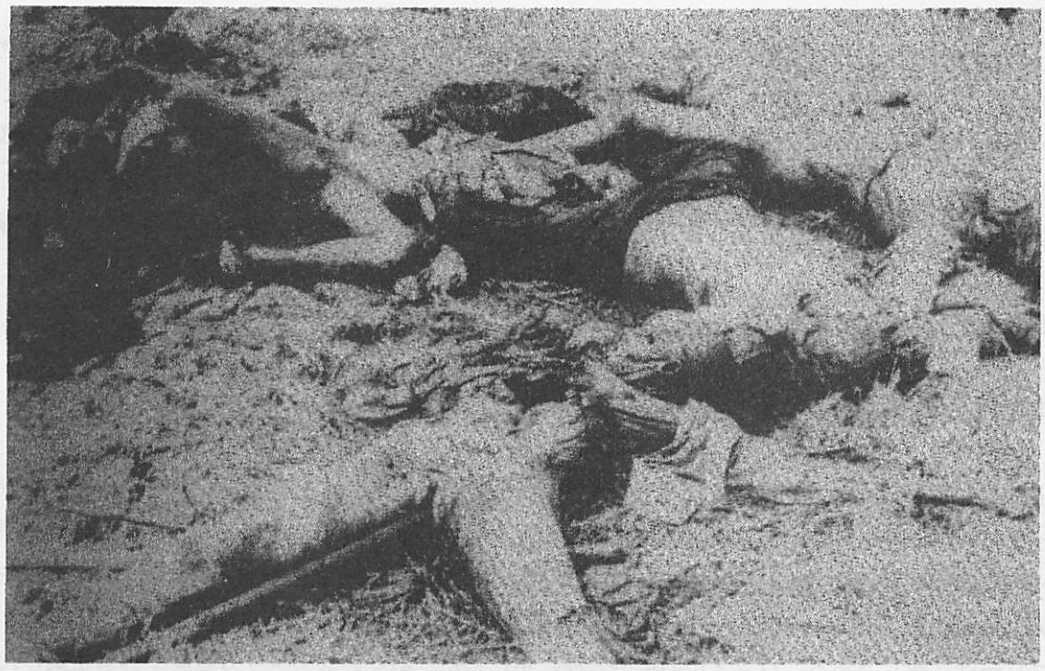
グエン・ティ・チャムは、カンボジア国境からわずか数キロのアンザン省 Thin Bien 地区のトイソン協同組合の女性連合会会長をつとめる。彼女は頑丈な農婦である。私が会ったとき、彼女は汚れのない、清潔できちんとアイロンをあてた白いシャツを着ていたが、そのつめは長年の土にまみれた労働の日々のため永遠に茶色になっていた。私は彼女に多くの質問をする必要はなかった。彼女は早口に、侵入したポルポト軍との 15 の戦闘で協同組合の女性たちが果たした役割の詳細を誇らしそうに語った。

> 人々は二回故郷を破壊されました。初めはアメリカ軍、二回目はポルポト軍によってです。アメリカからの解放後、平和は五日間しか続きませんでした。ポルポト軍が攻撃を始めたのです。私たちは反撃し、1978 年 1 月までは再びポルポト軍を見ませんでした。…私たちは反撃のために 400 人の女性を組織しました。私たちは敵 29 名を殺し、彼らの武器の多数を取得

64 Nayan Chanda, 'Ganging Up with the Exiles', *Far Eastern Economic Review*, 31 July 1981, pp. 11-12. もとになっている記事は、Truong Nhu Tang, 'The Myth of Liberation', *New York Review of Books*, 21 October 1982, pp. 31f.

65 Christine White, 'Viet Nam and the Politics of Gender' (Mimeo: University of Sussex 8, 8 November 1981), p. 2.

66 John Pilger, 'Revenge on Viet Nam', *Viet Nam Newsletter*, No. 4, July-August 1979, p. 4.



アンザン省バチュク村ではポル・ポト軍によって 2,000 人あまりが殺害された。棒を使うなどして多くの女性が強姦された。Viet Nam News Agency

したのです。彼らのライフルは中国で作られたものでした。

1978 年 4 月 18 日の戦闘の間、30 人の女性が一台の迫撃砲を山の上に引っ張り上げました。私たちはそこでポルポト軍を攻撃する配置につきました。戦闘は五日間続きました。私たちに対するポルポト軍の虐殺を許さなかったのです。他の 80 人の女性が塹壕を掘りました。私たちは、敵が全てを焼き、全てを破壊するのを知っていました。祖国を防衛するか殺されるかしか選択肢はなかったのです。だから私たち女性は戦闘でものすごく活躍しました。そのことは四日間でも話をすることができますよ。[67]

1975 年の最初の攻撃直後、ポルポトは、ベトナム政府の疑うことを知らない高官に対して、その事件はクメールルージュ軍が土地の地理について知らなかったために起きたのだと説明した。ベトナムは、山積みする国境の緊張を話し合いで解決しようと試みた。クメールルージュは突然 1976 年 5 月、話し合いを延期した。1977 年初めまでに、クメールルージュは頻繁な大規模攻撃を始めていた。1977 年 4 月、ベトナム人民解放軍はポルポト軍をベトナムから追い出す反撃を開始した。ベトナムはそれから話し合いの再開を提案した。クメールルージュは話し合いを拒否し、状況は悪化した。

1977 年末までに、何万ものポルポト軍がホーチミン市の真北にあるタイニン省を侵略していた。1978 年初めに、ポルポト軍はその西部に加えてアンザン省をも侵略した。1978 年 4 月 18 日彼らはアンザン省のバーチュックで、とりわけ女性と子どもに対して身の毛のよだつような蛮行をはたらき、2,000 人以上の人を虐殺した[68]。約 35 万人の人がカンボジアとの境界地域から避難せねばならなかった。これらの人々は故郷も収穫も失った。ベトナムがポルポト軍をアンザン省から放逐するまでに、4,000 人以上が殺された。

67　ポル・ポト派との戦争に従軍した複数の兵士たちと著者が交わした会話から。(1981 年 10 月 8 日アンザン省ロンスエン)

68　ベトナム政府外務省、*Viet Nam Courier* および Viet Nam Press Agency はベトナムにおけるポル・ポト派の虐殺行為を詳細に記録している。また第三者機関がその告発を裏付けてもいる。例として William Shawcross, *Sideshow* (New York: Simon and Schuster, 1979), p. 391. また *Far Eastern Economic Review* の書籍など。

なぜ二つの友好的と思われた隣国の間で話し合いによる解決が不可能であったのか？答えは複雑であり、カンボジア内外の展開を理解する必要がある。ポルポトのクメールルージュ軍はベトナム人民に対してと同様、自国の人々に対してもジェノサイド戦争を敢行した。これは1975年4月17日、全カンボジア諸都市の強制避難で始まった。そのとき出産したばかりで病院の手術台にいた女性たちさえ田舎への強制行進に参加せねばならなかった。何千人もが行進で死亡した。外国人、知識人その他の「寄生者」の腐敗した影響を除去することによってカンボジアを「浄化」しようとする過程で、ポルポト政権は200万から300万と見積もられる人々を死にいたらしめた。

「私たちには泣く権利さえなかった」

ポルポトはカンボジア社会を三つのカテゴリーに分けた。1）「旧民」は1975年4月に先立って解放区の住民だったため、クメールルージュに忠実だと思われた少数者であった。2)「新人」はカンボジアの諸都市、あるいはアメリカが後援したロンノル政権の支配地域に生活する人々であった。「新人」は奴隷労働キャンプでの労働によって浄化されるまで、外国の手先、腐敗した反共主義者として有罪だと疑われた。3) 第三のカテゴリーは「敵」である。ロンノルの軍や公務に奉仕した、あるいはアメリカ政府や外国企業のために働いた人は誰でもそうだった。彼らは、即決処刑された。ベトナムでのように民族和解というコンセプトはそこになかった。

万人にとってあまりにも過酷な状態だったので、あるカンボジア人は「私たちは（霊魂の再生を信じているので）死を恐れない。私たちが唯一恐れるのは、生まれかわってまたカンボジア人になることだ」と語った[69]。ほとんど全人口が奴隷労働キャンプに追いやられた。「旧人」は労働旅団のリーダーになることができ、いくらかの権利を保有した。だが「新人」には何もなかった。彼らは無償で一日に16時間労働し、生存ぎりぎりの配給を得ただけである。ポルポト当局に挑戦する可能性のある学校や宗教や文化は認められなかった。

死亡した数百万人は、たいてい飢餓、消耗、日射病で倒れた。即決処刑も、ほんの小さな違反に対してまで日常的だった。ポルポトの政策の前提は、「一人の敵の生存を許すより、十人の無実の者を殺害するほうがよい」というのであった。ポルポトは、新生カンボジアは元々の800万の人口のうち100万か200万が必要なだけだと主張した[70]。女性たちは生理がとまり、彼女たちの体は重労働と飢餓によってぼろぼろになった。夫を選ぶことも許されなかった。結婚はクメールルージュ政権によって手配された。

民族解放闘争の指導者が自民族の人々にそんな犯罪をはたらくということが、いかにして可能だったのだろう？そもそも彼はいかにして権力を得たのだろうか？カンボジアに関する著書で賞を受賞したウイリアム・ショウクロスは、アメリカの責任を指摘している。「今日のカンボジアの悲劇に責任があるのは二人の男だけだ。ニクソン氏とキッシンジャーだ。ロンノルは彼らがいなかったら無だった。クメールルージュはロンノルがいなかったら無だった」[71]。ポルポトは、CIAがロンノルを1970年に政権に就けるまで、いかなる民衆基盤を持つことも容易ではなかった。ロンノルは絶望的に腐敗し、無能力で、アメリカへの依存のために信用されていなかった。皮肉にも、1975年4月以前のポルポトは、ベトナム人民解放軍から決定的な軍事援助をも受けていた。

69　Jacques Danois, *The Will To Live* (UNICEF, 1979). また1981年9月、著者自身のカンボジア訪問の際に得た情報から。また Chantou Boua, 'Women in Today's Cambodia', *New Left Review*, No. 131, January-February 1982, pp. 45-61.

70　Francois Ponchaud, *Year Zero* (Middlesex: Penguin, 1978), pp. 86 and 92.

71　Shawcross, op. cit., p. 391.

カンボジア革命運動の内部には幾つかの諸傾向が存在していた[72]。民族排外主義的潮流を代表するポルポトは、むこうみずな戦術を使って他者に対する優位性を獲得した。彼の獰猛な民族主義は、自国の面積が縮まり消滅の危機に瀕していると見なすカンボジアの一部の知識人にアピールした。アメリカの絨毯爆撃で数万人もが殺され338万9,000人が難民になったが、その爆撃でとほうもなく苦しめられていた農民たちも、ポルポトの軍事主義に惹きつけられた。ポルポトはベトナムからメコンデルタを最征服することによってカンボジアの過去のアンコール時代の栄光を回復すると約束した。ついに、ポルポトの約束は特にカンボジアの10代の若者にをひきつけることになった。

ポルポトは政権をいったん掌握すると、様々な地方の民衆の間、農民と都市住民の間、そして知識人と無教育の人々の間にあった伝統的敵対意識をたくみに操ることによって支配を維持した。ポルポトは食糧と全ての武器の分配を独占し、職場の内外でのすべての運動を支配した。不満の増大に直面し、ポルポトは逮捕や処刑をエスカレートさせた。ポルポトは自分が数百万人にもたらした荒廃に対する民衆の反動を相殺するために、ベトナムに対する民族的憎悪を頼りにした。ラジオ・プノンペン放送で、ポルポトは「我々は狙った目的をこれまで達成してきた。倒れたカンボジア人一人について30人のベトナム人が殺された。…だから我々は5千万のベトナム人を絶滅するために200万人のカンボジア人を犠牲にできるであろう。それでも我々にはまだ600万がいる」と強く勧告した[73]。

中国のポルポトに対する支配の程度を見積もるのは難しい。ポルポトのイデオロギーが初期に毛沢東に強く影響されたことや、ポルポトが1975年以後中国から莫大な軍事的経済的政治的支援を受けていたことには十分な証拠がある。ショウクロスは、その依存ぶりについて特筆した。「プノンペンは放棄された。近代的政府の装置は何一つ存在しない。すべての事務所は放棄された。…郵便制度もなければ通貨も電話もない。カンボジア以外の世界との主なリンクは隔週の北京へのフライトだけだった」[74]。

ベトナム外相グエン・コ・タックは詳しく述べた。「1,000万以下の人口しかないカンボジアがいかにして5,000万以上の人口があるベトナムを敢えて交戦相手にできただろうか…クメールルージュは、自分の背後に8億人の中国人がいると確信しているのである」[75]

ポルポトはベトナム再征服を約束し、その一方、ベトナムがカンボジアを併合しカンボジア民族をベトナム化して抹消するつもりなのだとも主張した。ポルポトはベトナムを第一の敵と定義することによって、内部の反対者にベトナムの手先だというレッテルを貼って反対者の虐殺を正当化することもできた。ポルポトの究極的な目標が何であれ、ポルポトの脆弱性のおかげで中国はポルポトを利用し、ベトナムに対する戦争を敢行させることができた。ベトナム人民解放軍はポルポトに反対するカンボジア勢力と結びつき、1979年1月7日までにポルポトのカンボジアからの逃走を余儀なくさせた。数週間後、中国は「ベトナムに教訓を教える」ために60万の軍隊でベトナムに侵攻した。数年を経た現在もなお、カンボジアで権力に復帰しようと試みるポルポトを中国は支援している。

想像できなかったことが起きる

「だから、私たちが決して想像もできなかった事が起きたのです。中国という、ベトナムの親しい友人だった国が、ベトナム人民の主要な敵になったのです」。女性連合会教育部長レ・トゥーは、祖国を再建し女性

72 以下の記述は次の文献から。Ben Kiernan, 'Pol Pot and the Kampuchean Communist Movement', in Kiernan and Chantou Boua (eds), *Peasants and Politics in Kampuchea: 1942-1981* (London: Zed Press, 1982), pp. 227-317.

73 Broadcast, 10 May 1978, quoted by Kiernan, op. cit., p. 232.

74 Shawcross, op. cit., p. 369.

75 Burchett, op. cit., p. 149.

の権利を拡張するために努力する女性たちが現在直面している障害を説明しようとして、語り続けた。

> ベトナムのことわざに言います。「中国人とベトナム人はよく同じ所から水を飲み、同じ草原で水牛を放牧し、同じ森で薪を集める」と。だから戦争が始まったとき、人々、とくに中国に近隣の人々には、理解できませんでした…
>
> 中国軍はベトナムの人々を殺し、虐殺しました。中国軍の犯罪は、米軍よりいっそう野蛮でさえありました。私たちは自らを防衛し、中国軍はすぐに撤退を余儀なくされたものの、まだ敵対を続けています。中国はスパイを送ってきました。彼らはベトナム人の間に不平の種をまこうとしているのです。経済を破壊するために水牛を殺し、偽造貨幣を流通させたのですよ。彼らは定期的に、ベトナム領土の一部を奪い取ります。田畑に行く途中の農民たちを待ち伏せて攻撃し、道路に地雷を敷設するのです。…戦争はいつ何時でも起こり得ました。…それでも私たちはもう二つの戦線で包囲されてはいるわけではなくなったので、以前に比べれば、良くなっています。今では、カンボジアには友好的な政府があります。中国は一方からベトナムを攻撃できるだけです。[76]

中国は意図的に中国軍が占領した地域において経済基盤を麻痺させようとした。北部の六省で、中国軍は橋や全部の工場、発電所、国営農場、森林保護区、鉱山を破壊した。約150万人の人々が避難を余儀なくされ、85000ヘクタールの水田は消失するか廃棄された。避難民の家のほとんどは破壊されるか損壊させられた。女性と子どもの健康や福祉が被った損害は特に大きかった。学校の82%、病院やヘルスセンターの99.5%、全てのデイケアセンターが破壊された。水牛などの牛の約60%、豚の80%が殺されるか、略奪された[77]。私が1981年にランソンの国境の都市を訪問したのは、侵攻から約二年後であったが、その都市の経済的社会的生活をみると、一時しのぎの青空市場と学校で、人々は再生のために苦闘していた。

中国軍の侵入で苦しんだのは六省の人々だけではなかった。侵攻数ヶ月後にハノイを訪問したあるカナダ人女性は、その都市全体に塹壕が掘られているのを見て、こう書いた。

> 全測道に沿って新しい盛り土があることで、人々が中国の脅威を深刻なものと受け止めている様子と備えのために支払われているコストが分かる。…こんな旧防空壕を発掘する時間があるなら、人々は皆、家の建設やアメリカが残した爆弾のクレーターの除去、あるいは工場経営をすることだってできたはずなのに。…[78]

1981年にハノイの西にあるハ・ソン・ビンを訪問したとき、私は成人人口の75%が女性だと気づいた。男性たちは中国が「ベトナムに第二の教訓を教える」ために脅迫してきたら戦えるよう、動員されていた。私を客として迎えてくれた人々は、ハ・ソン・ビンは例外ではないと語った。ベトナムは依然として戦時の警戒下にあり、今後数年間、中国からの脅威に直面すると予想されている。その戦時警戒態勢の代償は莫大である。

76　著者によるレ・トゥーへのインタビュー（1981年8月29日ハノイ）

77　Murry Hiebert, 'Waiting in Ruins for the Next Installment', *Far Eastern Economic Review*, 15 June 1979, p. 28. 及び 'Remember these Crimes', *Viet Nam* (pictoral), No. 246, June 1979, p. 14. また 'Crimes of the Chinese Troops in Viet Nam', *Women of Viet Nam*, No. 3, 1979, p. 5.

78　Sara Rosner, 'Letter from a Friend in Viet Nam', *Viet Nam Newsletter*, No. 4, July-August 1979, p. 25.

彼らが支払う値段

何百年もの植民地支配の遺産、アメリカとの戦争の傷、それからポルポト及び中国との戦争は、厳しい洪水や経済管理の失敗と結びついて、ベトナムの人々に残酷な経済的困難をもたらした。しかし、これらの要素が全て同じ重さを持っていたわけではない。グエン・カク・ビエンは計算した。

1979年2月、中国軍の侵攻を受け国境地帯から避難する子どもや老人たち　Viet Nam News Agency

> 中国との戦争のためではありません。今まで、私たちは食糧は自給してきたのです。…メコンデルタの米は、メコンデルタの住民と、それほどには肥沃でない別の土地の住民が生きてゆくのに十分ありました。けれども私たちには輸送という問題があるのです。トラックは欠乏していますし、戦争の脅威によって、あらゆる輸送が防衛用に使われねばなりません。…戦闘機を一時間、空に飛ばすために用いる燃料の予算で、一家族を一年間養うことができたのです。[79]

だからベトナムの生活水準は依然として非常に低く、女性解放の強力なブレーキになっている。たいていの労働で、機械の助けがほとんど得られないため、背骨を痛めてしまう。ベトナム女性はあまりにも激しく働かねばならない。これが女性の潜在力を発展させるために必要な余暇を奪い、また女性の健康を危うくしている。例えば、法律は、私が訪ねた絹織物工場で働く女性たちに衛生施設を保証している。が、資源不足とは、当分女性が地面に穴を掘っただけの屋外便所を用いねばならないことを意味する。家庭の外で働いたり学んだりする女性には全員、無料で託児ができる権利が認められている。だが食糧不足のため、現存の託児センターにいる子ども全員が十分な栄養を得られるわけではない。保育労働者や子どもが自分で創ったものを除くと、おもちゃは希有の贅沢品である。かつて非識字だった女性たちが今では読むことができる。が、彼女たちの教育を続けるには、厳しい紙不足によって制限がある。女性連合会はすばらしい週刊紙を出版しているが、発行部数を縮小せねばならない。紙面に興味を抱く人が不足しているためではなく、紙の割り当てが厳しいからである。こうした事例は生活の隅々で増殖している。

これまでの四章で論じた諸問題、すなわち封建的家父長制やフランスの植民地主義やアメリカとの戦争・敵対の継続といったことは、女性の進歩を妨げているだけではなく、それらが作り出した女性の惨めさがベトナム女性運動の存在理由になった。それらはベトナムにおける女性の闘いの全ての面で諸条件を定義し、限界と優先順位を規定している。ベトナム女性が達成した進歩を評価したり比較したりしようとするとき、女性解放という理想のみならず、女性の抑圧（と抵抗）のこれらの根源を思い出すことが重要である。

【藤目ゆき　訳】

79　著者によるグエン・カク・ビエンへのインタヴュー（1981年9月1日ハノイ）